

令和4年11月17日

令和4年度第8回定例松本市教育委員会

会 議 議 案

松本市教育委員会

令和4年度第8回定例松本市教育委員会付議案件

[議案]

- 第1号 令和5年松本市ハタチの記念式典（成人式）の開催について

[報告]

- 第1号 部活動の地域移行について
第2号 令和4年度全国学力・学習状況調査の分析と考察について
第3号 年末年始期間における貸出冊数の変更について

[周知]

- 1 松本城南外堀跡発掘調査現地説明会及び松本城三の丸跡（土居尻第16次）
発掘調査現地一般公開の開催について

[その他]

議案第 1 号

令和5年松本市ハタチの記念式典（成人式）の開催について

1 趣旨

成人であることを自覚し、将来の可能性に挑戦する二十歳の方々を祝い励ますため、令和5年松本市ハタチの記念式典を開催することについて協議するものです。

2 式典名称

令和4年1月までは「松本市成人式」の名称で開催しましたが、法改正により本年度から18歳が成年年齢となったため、高校生・若者を対象としたアンケート結果等を参考に、今回の式典から「松本市ハタチの記念式典」に名称を変更するものです。

3 式典概要

- (1) 日 時 令和5年1月8日（日）
- (2) 場 所 松本市総合体育館 メインアリーナ
- (3) 主 催 松本市・松本市教育委員会
- (4) 企画運営 令和5年松本市ハタチの記念式典実行委員会（対象者11名で構成）
- (5) 対象者 平成14年4月2日から平成15年4月1日生まれ
2,624人（令和4年9月1日現在）

(6) 開催内容

区 分		内 容
1	式典の形態	1部制 13時～13時50分（予定）
2	席の配置 総合体育館座席数	座席間隔を確保し、出身校ごとに席を指定 1階1,236席、2階892席 合計2,128席
3	式典内容	・司会（ハタチの記念式典実行委員） ・主催者式辞（市長） ・来賓祝辞（市議会議長） ・旧担任紹介 ・二十歳の抱負 ・記念品贈呈 ・企画映像 ・ゲスト出演（サイエンスアーティスト 市岡元気さん）
4	テーマ	いまこそ
5	出席記念品	フェイスタオル（ハタチの記念式典実行委員会がデザインを担当）
6	記念写真	式典終了後、出身中学校毎に4カ所で撮影予定 13時50分～14時50分 写真は後日、自宅へ郵送

4 新型コロナ感染症対策について

- (1) 対象者は、式典1週間前から式典当日までの健康状態等を感染予防チェックシートに記入のうえ、式典当日受付に提出し、確認
- (2) 会場内でのマスクの着用、入口での体温チェック及び手指消毒の徹底
- (3) 式典会場は、密を避けるため対象者のみ入場可とし、式典の様子はユーチューブでライブ配信と録画配信

5 今後の対応

- (1) 松本市ホームページ（11月中旬に掲載）、広報まつもと12月号で周知します。
- (2) 今後の新型コロナウイルスの感染状況により、開催の延期などの判断については教育委員会で協議します。

担当	生涯学習課
課長	石川 善啓
電話	32-1132

学びに、遊びや体験を。

子どもが主人公 学都松本のシンカ

報告第 1 号

部活動の地域移行について

1 趣旨

中学校部活動の地域移行に向けた市の対応について報告するものです。

2 背景

これまで多くの中学校等の生徒のスポーツや文化活動に親しむ機会は、学校で行う部活動により確保されてきたが、少子化や学校の働き方改革が進む中で、現行の学校単位で教員が指導する従来の部活動の形を維持していくことは極めて困難であり、今後、生徒がスポーツや文化活動に親しむ機会が大きく減少してしまう恐れがある。

3 経過

- 4. 5～ 休日部活動の地域移行プロジェクトチーム（3回開催）
- 6 「運動部活動の地域移行に関する検討会議提言」（スポーツ庁）
- 8 「文化部活動の地域移行に関する検討会議提言」（文化庁）
※スポーツ庁及び文化庁の提言内容は別紙1のとおり
- 11 部活動の地域移行関係者準備連絡会議

4 地域移行の方向性

- (1) 上記提言を受け、令和5年度から令和7年度末を目途（改革集中期間）に休日の運動部活動から段階的に地域移行していきます。
- (2) 大事にしたいこと
 - ア 休日の移行のみならず、将来的な平日の移行も今から見据えます。
 - イ 広い市域であっても、できる限り、子どもが「やってみたい」と思う活動を選択できる環境を整備します。
 - ウ 地域移行しても、松本市の指針「松本市中学生期のスポーツ活動指針／文化活動指針」に沿った適正な活動を前提とします。

5 地域移行のイメージ

別紙2のとおり

6 今後の進め方

- (1) 児童生徒、保護者、学校への説明及びアンケートを実施します。
- (2) 競技や地域別などのカテゴリー別モデルケースを決定します。

- (3) 実施にあたり課題等を整理するとともに必要な支援を検討します。
- (4) 先行して実施可能なモデルケースから休日部活動の地域移行を実施します。
- (5) (仮)部活動地域移行検討協議会を設置します。

7 移行までのスケジュール (案)
別紙3のとおり

8 今後の予定

- (1) 次期開催の庁議に報告します。
- (2) 市議会議員向けの説明会を実施します。

担当
教育政策課 課長 白井 美保
電話 33-3980
学校教育課学校支援室 室長 坂口 俊樹
電話 33-4397
生涯学習課 課長 石川 善啓
電話 32-1132



提言内容

【改革の方向性】

- ・令和5年度から令和7年度末を目途(改革集中期間)に**休日の運動部活動・文化活動から段階的に地域移行**していくことを基本
- ・**平日の運動部活動・文化活動の地域移行は、できるところから取り組む**。地域の実情に応じた休日の地域移行の進捗状況等を検証
- ・地域におけるスポーツ機会・文化芸術に親しむ機会の確保、生徒の多様なニーズに合った活動機会の充実等
- ・地域のスポーツ団体等・文化芸術団体等と学校との連携・協働の推進

【運動部】

- ・地域における新たなスポーツ環境の在り方、構築方法、スケジュールの具体的明示
- ・**生徒にスポーツの機会を提供する団体等の十分な整備**
- ・地域における**指導者の質の保障・量の確保、指導を希望する教師等の在り方(兼職兼業等)の整理**
- ・十分な数の体育・スポーツ**施設の確保**
- ・中学校等の生徒にふさわしい**大会の在り方の整理**(中体連主催等)
- ・適正な額の**会費の在り方の整理**
- ・生徒や指導者が怪我等をしても**十分な補償**を受けられるような保険の考え方の整理
- ・**学習指導要領、高校入試、教師の採用選考等の整理**
- ・地域移行の取組みが進められている間の運動部活動の改善の方向性の整理
- ・すべての都道府県において、休日の運動部活動の地域移行に向けた具体的取組やスケジュール等を定めた推進計画を策定し、それを基に各市町村においても推進計画を策定することを規定することが適当

【スポーツ環境構築の検討主体】

市町村の地域スポーツ担当部署、学校の設置・管理運営を担う担当部署、地域スポーツ団体、学校等の関係者からなる**協議会を設置し**、活動の実施主体やスケジュール等を検討し、実行する。

【文化部】

- ・地域における新たな文化芸術に親しむ環境の在り方、構築方法、スケジュールの具体的明示
- ・**文化芸術団体等の整備充実、指導者の質・量の確保、指導を希望する教師等の在り方(兼職兼業等)の整理**
- ・十分な数の社会教育施設・文化**施設の確保**
- ・中学校等の生徒にふさわしい**大会・コンクールの在り方の整理**
- ・適正な額の**会費の在り方の整理**
- ・生徒や指導者が怪我等をしても**十分な補償**を受けられるような保険の考え方の整理
- ・**学習指導要領、高校入試、教師の採用選考等の整理**
- ・地域移行の取組みが進められている間の文化活動の改善の方向性の整理
- ・すべての都道府県において、休日の文化及び文化活動の地域移行に向けた具体的取組やスケジュール等を定めた推進計画を策定し、それを基に各市町村においても推進計画を策定することを規定することが適当

【文化芸術等に親しむ環境構築の検討主体】

市町村の文化振興担当部署、社会教育など生涯学習担当部署などが中心となり、学校の設置・管理運営を担う担当部署、地域の文化芸術団体、学校等の関係者からなる**協議会を設置**。運動部の検討を踏まえ、地域スポーツ担当部署、スポーツ団体とも緊密な連携を図り、活動の実施主体やスケジュール等を検討し、実行する。

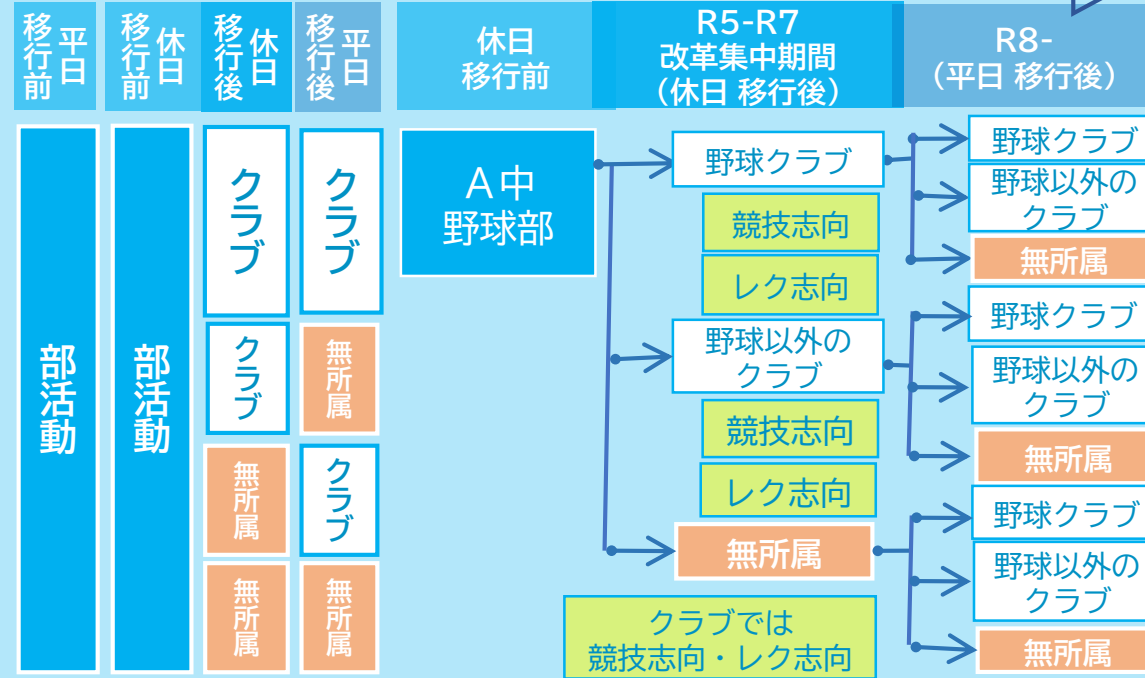
市の基本方針(案)

あくまでもたたき台としての方針。
アンケートや協議会での協議を経て固めていく。

スポーツと文化とともに生きるまち、松本

- 1 休日の移行のみならず、将来的な平日の移行も今から見据える。
- 2 広い市域であっても、できる限り好きなスポーツ・文化活動を選択できる環境の構築
- 3 スポーツ・文化活動による心身の健康増進
- 4 多年代(小中高大・大人)との交流促進
- 5 多様な種目を多様なニーズで選択しやすく(運動系・文化系・アーバンスポーツ・インクルーシブスポーツ／二期制・多種目制／競技志向・レクリエーション志向／など)
- 6 勝敗だけではない多様な成果発表の場の整備(訪れたいまち)
- 7 松本の文化資源の活用
- 8 子ども、家庭のニーズに基づく指導者確保
- 9 指導者への研修整備(暴力根絶、発達に応じた指導法など)

基本方針(案)を基に移行すると、様々な利点・課題点が生じる。



【現在】

【移行後】

想定される利点・課題点を協議会で検討し、制度設計していく。

利点

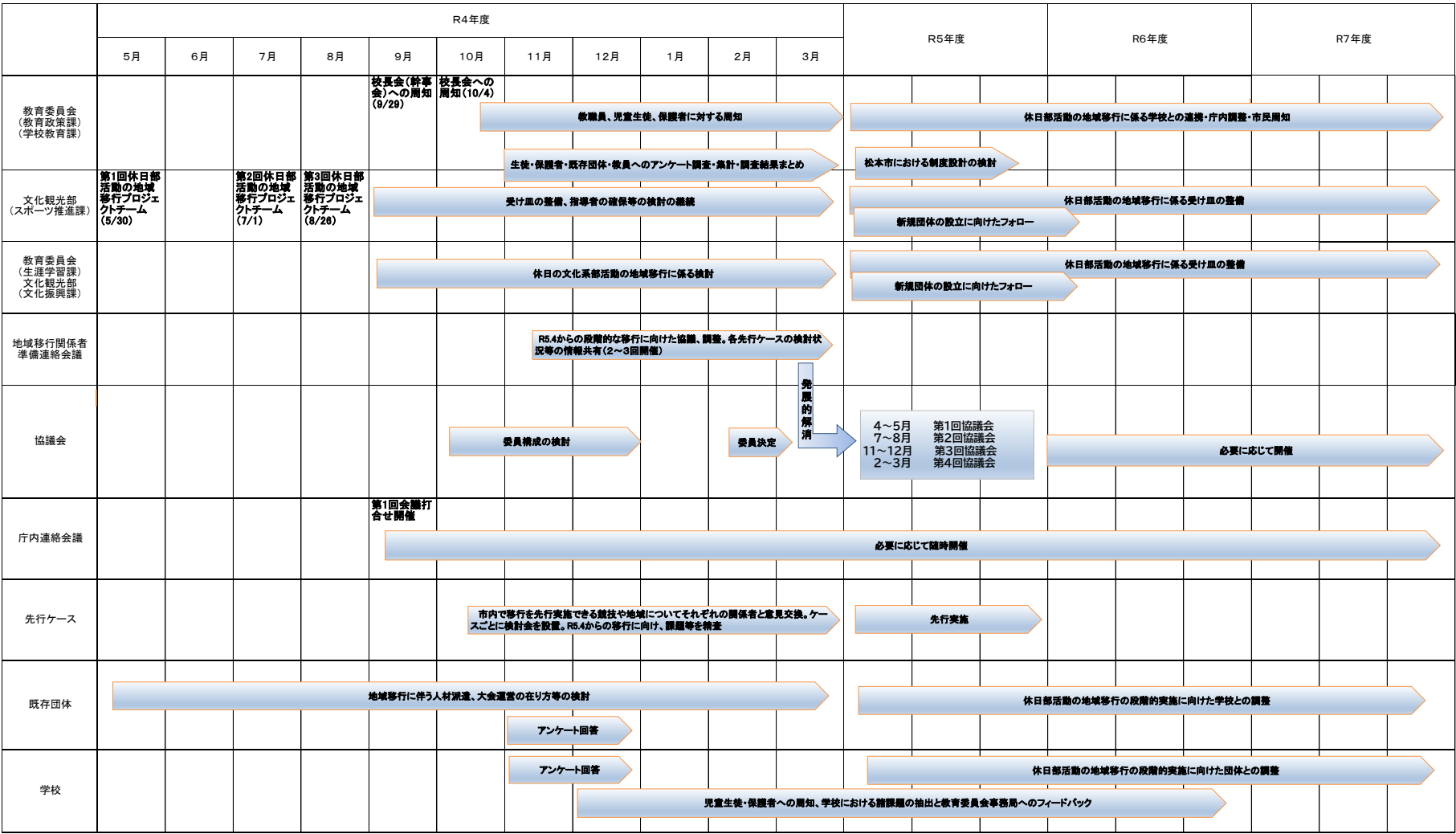
- 1 専門性のある指導
- 2 適正に合う種目・団体の選択
- 3 新規種目への挑戦
- 4 指導希望教員の報酬を得た指導
- 5 参加者数増による活動活性化

課題点

- 1 指導者の確保
- 2 家庭負担増(月謝、送迎)
- 3 教員の兼職兼業の整備
- 4 中体連大会参加による混乱
- 5 クラブ加入への強要
- 6 希望しない顧問への強要
- 7 学校負担増(学校施設・用器具貸借)
- 8 学校、協会、中体連等との協議
- 9 平日の円滑な移行

※地域移行により、中学校から教育活動としての部活動が無くなる。移行後は、地域施設等(公営グラウンド、地区体育館、公民館、一般開放の学校施設等)に近隣校生徒が集まり、地域指導者の指導を受ける。
※移行後も指導を希望する教諭は、兼業で指導することが可能である。

部活動の地域移行スケジュール(案)



① 学校現場において国の提言内容も含め理解が進んでいない実態があるため、令和4年中(12月まで)に、移行の方向性・進め方・スケジュールなどについて教職員、保護者、児童・生徒への周知を図る。
 ② 地域での受け皿づくりを含め、ニーズの把握、解決すべき課題の抽出を行うため、令和4年度中に、アンケート調査・集計・結果のまとめを行う。
 ③ 市内中学校の部活動の状況やクラブスポーツ等が盛んな地域の状況を整理したうえで、4月からの移行の先行実施が可能なケースを3つ程度立上げ(令和4年度中にケースごとに検討会を設置。課題を整理し、解消に向けた検討を行う。)
 ④ アンケート調査等に基づいて松本市における基本方針策定と制度設計(国の財源措置等の動向を見ながら概ね令和5年度中に策定)
 ⑤ 協議会を令和5年度から立上げ

報告第 2 号

令和4年度 全国学力・学習状況調査の分析と考察について

1 趣旨

令和4年4月19日（火）に市内全校が実施した「全国学力・学習状況調査」について、松本市における調査結果の分析と考察について報告するものです。

2 経過

R4. 8. 1 学力調査検討小委員会で、結果分析の作成及び推進日程の検討・確認

18 教育委員研究会で、「全国学力・学習状況調査（松本市）」速報値を報告

9. 16 学力調査検討小委員会で、公表案の検討・修正

10. 20 教育委員研究会で、公表案の検討・修正

11. 11 松本市校長会で、修正を加えた公表案の報告

3 調査結果の分析と考察について

別紙のとおり

4 今後の予定

11月18日（金）に、松本市ホームページに公開及び市内小中学校へ資料を送付します。

担当 学校教育課 学校支援室
教育監兼学校支援室長 坂口 俊樹
電話 33-4397

令和4年度

全国学力・学習状況調査の分析と考察

(令和4年11月)



松本市教育委員会
松本市校長会学力調査検討委員会

令和4年度 全国学力・学習状況調査の松本市における結果〔概要〕

調査概要

- ◇調査対象：小学校第6学年、中学校第3学年
- ◇調査実施日：令和4年4月19日（火曜日）
- ◇調査内容：① 教科に関する調査〔国語、算数・数学、理科〕
② 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査（児童質問紙、生徒質問紙）
- ◇今年度調査の特徴：ICTの使用場面を想定した問題など、学習や指導改善に役立つよう「学習指導上特に重視される点や身に付けるべき力を具体的に示すメッセージとなる問題」が出題されている。

教科に関する調査結果概要

- ◇平均正答率：平均正答率は、小学校国語において、全国（公立）の平均正答率よりやや高い状況である。他の教科は、全国（公立）の平均正答率とほぼ同程度である。
- ◇領域別状況：学習指導要領の領域等の平均正答率は、小学校国語「話すこと」、小学校算数「図形」、小学校理科「『エネルギー』を柱とする領域」、中学校国語「読むこと」、中学校数学「数と式」、中学校理科「『生命』を柱とする領域」において、全国の平均正答率と比べてやや高い状況である。他の領域は、全国の平均正答率とほぼ同程度である。
- ◇正答数の割合：正答数8割以上の児童生徒の割合は、小学校国語において、全国の割合と比べてやや高い状況であり、他の教科は、全国の割合とほぼ同程度である。また、正答数4割以下の児童生徒の割合は、すべての教科において、全国の割合と比べてやや低い状況である。正答数4割以下の児童生徒数が少ないことが、平均正答率を押し上げる主な要因になっていると考えられる。
- ◇問題形式：問題の形式は、選択式、短答式、記述式の3種類。記述式では、根拠を明らかにして記述したり、答えを導く方法を説明したりする問題が出題。小学校国語、小学校算数、小学校理科、中学校理科では、正答率が全国を大きく上回る問題も見られた。

- 各教科の「課題及び指導改善に向けて」では、特に課題と思われる問題を取り上げ、「課題が見られた問題について」「指導の改善・充実に向けて」の項目で、問題の趣旨や解答状況、誤答につながった要因、授業改善の具体的な方向を示しました。
- 表記については、長野県や全国の平均正答率、「知識・技能」「思考・判断・表現」に関わる内容等も参考にしながら、平均正答率7～8割程度を目安に「定着している」、「身に付いている」、5～6割程度を目安に「課題がある」としました。
- 生活習慣等に関する質問紙調査については、全体的な傾向や主な特徴等をまとめました。全国との比較を示す数値については、その差を「ポイント」という表現を使っています。（例：全国が30%、松本市40%の場合、松本市は全国を「10ポイント上回る」と表現しています）
- 本調査は、国語、算数・数学、理科の教科のみであるため、学習指導要領全体を網羅しているものではありません。また、本調査は、児童生徒が身に付けるべき学力の一部であることに留意ください。
- 文部科学省ホームページ（<https://www.mext.go.jp/>）のデータを利用して作成しています。また、一部の画像等は、令和4年4月19日に実施した「令和4年度全国学力・学習状況調査」の調査問題より引用しています。

問い合わせ先

【部課名】 松本市教育委員会 学校教育課 学校支援室

【連絡先】 電話：0263-33-4397 FAX：0263-34-3206

1 教科に関する調査結果

1(1) 小学校国語

<今回の調査結果の主な特徴と具体的な設問>

各設問に対する正答率と全国及び県平均正答率とを比べると、約9割の設問で全国及び県平均を上回っている。特に、必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉えることができている。

- ① 互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、自分の考えをまとめることに関しては、おおむね身に付いており、全国と比較するとやや上回っている。

調査問題 ① 四 「ごみ拾い」か「花植え」かのどちらかを選んで、でどのように話すかを書く問題 <課題及び指導改善に向けて1 参照>

15頁

話すこと
聞くこと

岡さんは、【話し合いの様子の一部】の で、「ごみ拾い」か「花植え」かのどちらかを選んで話そうとしています。あなたが岡さんなら、どのように話しますか。その内容を次の条件に合わせて書きましょう。

<条件>

- 「ごみ拾い」か「花植え」かのどちらかを選び、その問題点についての解決方法を考えて書くこと。
- 【話し合いの様子の一部】から言葉や文を取り上げて書くこと。
- 書き出しの言葉に続けて、五十字以上、八十字以内にまとめて書くこと。なお、書き出しの言葉は、字数にはふくまない。

(正答例)

・ごみ拾いがよいと思います。続けることがむずかしい点については、当番を決めてごみを拾ったり、地いきの方にも呼びかけて協力してもらったりするとよいと思います。

- ② 文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけることができることに関しては、かなり課題があるが、全国と比較するとやや上回っている。

調査問題 ③ 二 【伝え合いの様子の一部】を基に、【文章2】のよさを書く問題 <課題及び指導改善に向けて2 参照>

16頁

書くこと

島谷さんは、川口さんと伝え合ったことをもとに、自分の文章のよさをふり返り、書くことにしました。あなたが島谷さんなら、どのようなよさを書きますか。次の条件に合わせて書きましょう。

<条件>

- 【文章2】のよさを書くこと。
- 【文章2】から言葉や文を取り上げて書くこと。
- 六十字以上、百字以内にまとめて書くこと。

(正答例)

・わたしの文章のよさは、今年がんばりたいことを伝えるために、南さんの話や、さいばい委員の活動で反省したことを書いたり、運動委員として進めたい新たな活動を、最後のだん落に具体的に書いたりしたところです。

- ③ 漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書くことができるかどうかをみることに関しては、おおむね定着しているが、全国と比較するとやや下回っている。

調査問題 ③ 四 (一) から (二) に書き直した際、気を付けた内容として適切なものを選択する問題 <課題及び指導改善に向けて3 参照>

16頁

我が国の
言語文化に
関する
事項

島谷さんは、「六年生としてがんばりたいこと」を手紙で伝えたいと思い、(一)を書きました。そして、相手の読みやすさを考えて(二)のように書き直しました。島谷さんが書き直すときに気をつけた内容として最も適切なものを、あとの1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 とめやはねの書き方
- 2 文字の大きさ
- 3 文字と文字との間
- 4 行の中心

(正答)
4

1(2) 中学校国語

<今回の調査結果の主な特徴と具体的な設問>

各設問に対する正答率と全国及び県平均正答率とを比べると、約9割の設問で全国及び県平均を上回っている。特に、事象や行為、心情を表す語句について理解することができる。

①自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫して話すことに関しては、おおむね身に付いており、全国とほぼ同程度である。

調査問題 ① 三 スピーチのどの部分をどのように工夫して話すのかと、そのように話す意図を書く問題 <課題及び指導改善に向けて1 参照>

17頁

話す
こと

【二人の会話の一部】に——線部③「他の部分も話し方を工夫してみます。」とありますが、あなたならどの部分をどのように工夫して話しますか。次の条件1と条件2にしたがって書きなさい。

なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

条件1 【川口さんのスピーチ】のどの部分をどのように工夫して話すのかについて、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに着目して具体的に書くこと。

条件2 条件1のように話す意図を書くこと。

(正答例)

・「オンラインであっても、相手が話したことに相づちを打ったり、相手の話を受けてさらに質問をしたりするように意識することが大事だったのです。」という部分が一番伝えたいことなので、他の部分よりも大きな声で話す。

②自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができるかどうかをみることにしては、課題があるが、全国と比較するとやや上回っている。

調査問題 ② 三 農林水産省のウェブページにある資料の一部から必要な情報を引用し、意見文の下書きにスマート農業の効果を書き加える問題

書く
こと

小林さんは、上野さんと中村さんからの【コメントの一部】を踏まえて、で囲まれた「スマート農業には、作業を自動化すること以外の効果もあるようだ。」のすぐあとに、スマート農業の効果を書き加えることにしました。あなたならどのように書きますか。次の条件1と条件2にしたがって書きなさい。

なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

条件1 【農林水産省のウェブページにある資料の一部】から必要な情報を引用して書くこと。引用する部分は、かぎカッコ(「」)でくくること。

条件2 「例えば、」に続けて書くこと。

(正答例)

・(例えば、)農林水産省のウェブページにある資料には、作業の自動化以外に「情報共有の簡易化」と「データの活用」が示されている。

③場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈することができるかどうかをみることにしては、よく身に付いており、全国と比較するとやや上回っている。

調査問題 ③ 四 「おれ」は何を「なるほど」と思ったのかについて、話の展開を取り上げて書く問題 <課題及び指導改善に向けて2 参照>

18頁

読む
こと

——線部③「なるほど」とありますが、「おれ」は何を「なるほど」と思ったのですか。話の展開を取り上げて書きなさい。なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

(正答例)

・公園の噴水の広場で海にいるかのように遊ぶ「息子」と同じように、子供の頃の自分も想像力を働かせ、公園の水辺に海を見いだしていたこと。

1 (3) 小学校算数

<今回の調査結果の主な特徴と具体的な設問>

各設問に対する正答率と全国及び県平均正答率とを比べると、約6割の設問で全国及び県平均を上回っている。特に、図形を構成する要素に着目して、長方形の意味や性質、構成の仕方について理解することができている。

- ① 示された場面において、目的に合った数の処理の仕方を考察できるかどうかをみることに限っては、かなり課題があり、全国と比較するとやや下回っている。

調査問題 1 (4) 85×21 の答えが 1470 より必ず大きくなることを判断するための数の処理の仕方を選ぶ問題 <課題及び指導改善に向けて1 参照>

19頁

数と計算



85×21 の答えが 1470 より必ず大きくなることは、85×21 をそのまま計算せずに、85 と 21 をがい数にして計算してもわかります。

85×21 の答えが、1470 より必ず大きくなるのがわかるためには、「85」と「21」をどのようにがい数にして計算するとよいですか。

下のアからエまでのの中から1つ選んで、その記号を書きましょう。

- ア 85 を小さくみて 80、21 を小さくみて 20 として計算します。
イ 85 を小さくみて 80、21 を大きくみて 30 として計算します。
ウ 85 を大きくみて 90、21 を小さくみて 20 として計算します。
エ 85 を大きくみて 90、21 を大きくみて 30 として計算します。

(正答)
ア

- ② 伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、未知の数量の求め方と答えを式や言葉を用いて記述することに関しては、課題があるが、全国とほぼ同程度である。

調査問題 2 (4) 伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、未知の数量の求め方と答えを式や言葉を用いて記述する問題

20頁

変化と関係



ゆうかさんは、かいとさんが気づいたことをもとに、次のように考えました。

右の表のように、果汁の量が□倍になると、それにもなって飲み物の量も□倍になるのではないのでしょうか。このことを使えば、果汁の量が 180mL のときの飲み物の量を求めることができますね。

果汁の量 (mL)	30	60	90	...	180
飲み物の量 (mL)	100	200	300	...	?

果汁の量が 180mL のときの飲み物の量は、何 mL になりますか。

180mL が 30mL の何倍かをどのように求めたのかがわかるようにして、飲み物の量の求め方を式や言葉を使って書きましょう。また、答えも書きましょう。

(正答例)

・【求め方】果じゅうの量は、 $180 \div 30 = 6$ で、6 倍になっています。果じゅうの量が 6 倍になると飲み物の量も 6 倍になるので、飲み物の量は、 $100 \times 6 = 600$ で、600mL になります。

【答え】
600 (mL)

- ③ 正三角形の意味や性質を基に、回転の大きさとしての角の大きさに着目し、正三角形の構成の仕方について考察し、言葉と数を用いて記述することに関しては、おおむね身に付いており、全国と比較するとやや上回っている。

調査問題 4 (1) 示されたプログラムについて、正三角形をかくことができる正しいプログラムに書き直す問題

データの活用

はなこさんは、正三角形をかくためのプログラムをつくり、実行しました。

かこうとした正三角形をかくには、どちらの命令を直すとよいですか。下のアとイから選んで、その記号を書きましょう。また、その選んだ命令を、言葉と数を使って、正しい命令に書き直しましょう。

ア 5cm の直線を引く。 イ 左に 60° 回転する。

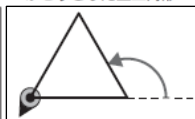
(正答例)

・【記号】イ 【正しい命令】左に 120° 回転する。

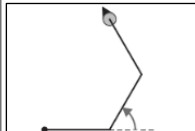
つくったプログラム

- ① 5 cm の直線を引く。
- ② 左に 60° 回転する。
- ③ 5 cm の直線を引く。
- ④ 左に 60° 回転する。
- ⑤ 5 cm の直線を引く。

かこうとした正三角形



実際の結果



1 (4) 中学校数学

<今回の調査結果の主な特徴と具体的な設問>

各設問に対する正答率と全国及び県平均正答率とを比べると、約7割の設問で全国及び県平均を上回っている。特に、多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の意味を理解することができている。

- ① 一次関数の変化の割合の意味を理解することに関しては、かなり課題があるが、全国とほぼ同程度である。

調査問題 ④ 変化の割合が2である一次関数の関係を表した表を選ぶ問題

関数

下のアからエまでの表は、 y が x の一次関数である関係を表しています。この中から、変化の割合が2であるものを1つ選びなさい。

ア	x	...	-6	-4	-2	0	2	4	6	...
	y	...	-11	-7	-3	1	5	9	13	...
イ	x	...	-6	-4	-2	0	2	4	6	...
	y	...	-5	-3	-1	1	3	5	7	...
ウ	x	...	-6	-4	-2	0	2	4	6	...
	y	...	-2	-1	0	1	2	3	4	...
エ	x	...	-6	-4	-2	0	2	4	6	...
	y	...	-7	-4	-1	2	5	8	11	...

(正答)
ア

- ② 箱ひげ図から分布の特徴を読み取ることに限しては、かなり課題があるが、全国とほぼ同程度である。

調査問題 ⑦ (2) 箱ひげ図の箱が示す区間に含まれているデータの個数と散らばりの程度について、正しく述べたものを選ぶ問題

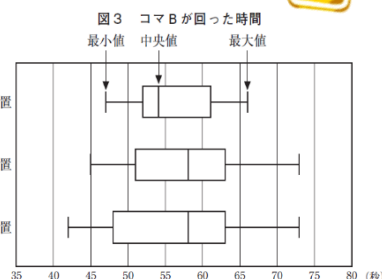
21頁

<課題及び指導改善に向けて1 参照>

データの活用

箱が示す区間にふくまれているデータの個数と散らばりの程度について正しく述べたものを、下のアからエまでの中から1つ選びなさい。

- ア データの個数は中央値を中心とする全体の約半数であり、データの散らばりの程度は、高位置よりも中位置の方が小さい。
イ データの個数は中央値を中心とする全体の約半数であり、データの散らばりの程度は、高位置よりも中位置の方が大きい。
ウ データの個数は高位置よりも中位置の方が少なく、データの散らばりの程度は、高位置よりも中位置の方が小さい。
エ データの個数は高位置よりも中位置の方が少なく、データの散らばりの程度は、高位置よりも中位置の方が大きい。



(正答)
ア

- ③ 筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明することに関しては、かなり課題があり、全国と比較するとやや下回っている。

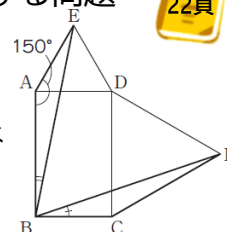
調査問題 ⑨ (2) $\angle ABE$ と $\angle CBF$ の和が 30° になる理由を示し、 $\angle EBF$ の大きさがいつでも 60° になることの説明を完成する問題

22頁

<課題及び指導改善に向けて2 参照>

図形

$\angle ABE + \angle CBF = 30^\circ$ を示すことで、長方形ABCDの辺の長さを変えても、 $\angle EBF$ の大きさがいつでも 60° になることが説明できます。琴音さんの考えの◇にある $\triangle ABE \cong \triangle CFB$ と $\angle EAB = 150^\circ$ はすでにわかっていることとして、 $\angle ABE + \angle CBF = 30^\circ$ になることを下の説明の◇に示し、 $\angle EBF$ の大きさがいつでも 60° になることの説明を完成しなさい。



説明

$\angle ABE + \angle CBF = 30^\circ$ になることが示せたので、
 $\angle EBF = 90^\circ - (\angle ABE + \angle CBF)$ より、
 $\angle EBF = 90^\circ - 30^\circ = 60^\circ$ になる。

(正答例)

・ $\triangle ABE \cong \triangle CFB$ より、合同な図形の対応する角は等しいから、 $\angle AEB = \angle CBF$ ……①
 $\triangle ABE$ において、三角形の内角の和は 180° で、 $\angle EAB = 150^\circ$ であるから、
 $150^\circ + \angle ABE + \angle AEB = 180^\circ$
 $\angle ABE + \angle AEB = 30^\circ$ ……②
①、②より $\angle ABE + \angle CBF = 30^\circ$
したがって、 $\angle ABE$ と $\angle CBF$ の和は 30° になる。

1 (5) 小学校理科

＜今回の調査結果の主な特徴と具体的な設問＞

各設問に対する正答率と全国及び県平均正答率とを比べると、約9割の設問で全国及び県平均を上回っている。特に、問題を解決するために必要な観察の視点を基に、問題を解決するまでの道筋を構想し、自分の考えをもつことができている。

- ① 自分で発想した予想と、実験の結果を基に、問題に対するまとめを検討して、改善し、自分の考えをもつことに関しては、おおむね身に付いており、全国と比較するとやや上回っている。

調査問題 ② (3) 水溶液の凍り方について、実験の結果を基に、それぞれの水溶液が凍る温度を見だし、問題に対するまとめを選ぶ問題

23頁

＜課題及び指導改善に向けて1 参照＞

「粒子」を柱とする領域

【結果】 〈水、砂糖水、食塩水を冷やした温度〉

	こおり始めた温度	すべてこおった温度
水	0℃	0℃
砂糖水	-1℃	-1℃
食塩水	-6℃	-8℃

【問題】砂糖水や食塩水がすべてこおる温度は、水がすべてこおる温度より低いのだろうか。

【予想】(はるとさんの予想)

砂糖水や食塩水は、こおるのが水の部分だから、水がすべてこおる温度と同じ0℃で、すべてこおると思う。



はるとさん

この【結果】からは、わたしの【予想】がちがっていることがわかったよ。【結果】の(ア)ということから考え直すと、【問題】に対するまとめは、(イ)といえるね。

はるとさんのことばの(ア)の中にあてはまるものを、下の1から4までのの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。また、(イ)の中にあてはまるものを、下の5から8までのの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。

- (ア) 1 水は0℃、砂糖水は-1℃、食塩水は-8℃ですべてこおった
2 水、砂糖水、食塩水は、冷やすとすべてこおった
3 すべてこおるまでの時間は、砂糖水より食塩水が長かった
4 水、砂糖水、食塩水は、0℃のときにすべてこおった
- (イ) 5 砂糖水や食塩水がすべてこおる温度は、水がすべてこおる温度と同じである
6 砂糖水や食塩水がすべてこおる温度は、水がすべてこおる温度より低い
7 食塩水がすべてこおる温度は、砂糖水がすべてこおる温度より低い
8 食塩水だけが、水がすべてこおる温度より低い温度ですべてこおる

(正答)
(ア) … 1
(イ) … 6

- ② 日光は直進することを理解しているかどうかをみることに关しては、かなり課題があるが、全国と比較するとやや上回っている。

調査問題 ③ (1) 光の性質を基に、鏡を操作して、指定した的に反射させた日光を当てることができる人を選ぶ問題 <課題及び指導改善に向けて2 参照>

23頁

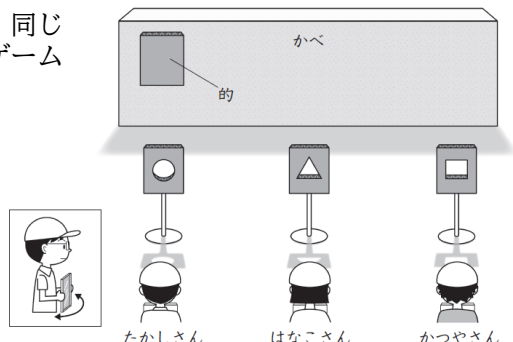
「エネルギー」を柱とする領域

たかしさんたちは、晴れた日に科学クラブで、同じ大きさの鏡を使い、日光をはね返して、的あてゲームをしました。

3人が右の図の位置で鏡の向きを変え、それぞれが日光をはね返して、3つの段ボールの板にあてたときに、かべの左にある的に、三角形の光をあてることができるのはだれですか。下の1から4までのの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 たかしさん
2 はなこさん
3 かつやさん
4 全員〈条件〉

(正答)
3



上の図のように、3人とかべの間に、それぞれ、円形、三角形、四角形に切りぬいた、鏡と同じ大きさの段ボールの板を置きました。

- ③ 予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して、問題を解決するまでの道筋を構想し、自分の考えをもつことに関しては、おおむね身に付いており、全国と比較するとやや上回っている。

調査問題 4 (2) 夜の気温の変化について、他者の予想を基に、記録の結果を表したグラフを見通して選ぶ問題 <課題及び指導改善に向けて3 参照>

24頁

「地球」を柱とする領域

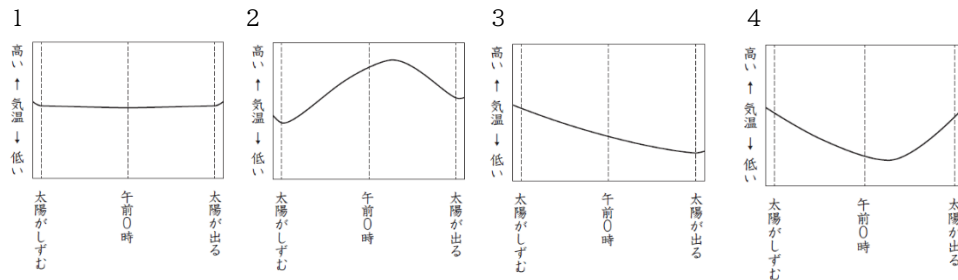
じろうさんの下線部の考えが正しいければ、冬の夜の気温は、どのようになると考えられますか。

夜は、太陽が出ていないから、晴れていても、くもっていても、気温は変化しないと思うよ。



じろうさん

下の1から4までのの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。



(正答)
1

1 (6) 中学校理科

<今回の調査結果の主な特徴と具体的な設問>

各設問に対する正答率と全国及び県平均正答率とを比べると、約8割の設問で全国及び県平均を上回っている。特に、モデルを使った実験において、変える条件と変えない条件を制御した実験を計画できるかどうかをみることができている。

- ① 継続的に記録した空の様子を撮影した画像と百葉箱の観測データを天気図に関連付けて、天気の変化を分析して解釈できるかどうかをみることに限っては、かなり課題があり、全国と比較するとやや下回っている。

調査問題 2 (2) 気圧、気温、湿度の変化をグラフから読み取り、雲の種類の変化と関連付けて、適切な天気図を選択する問題

25頁

<課題及び指導改善に向けて1 参照>

「地球」を柱とする領域

西の空のようすと観測データを関連付けて考察する場合



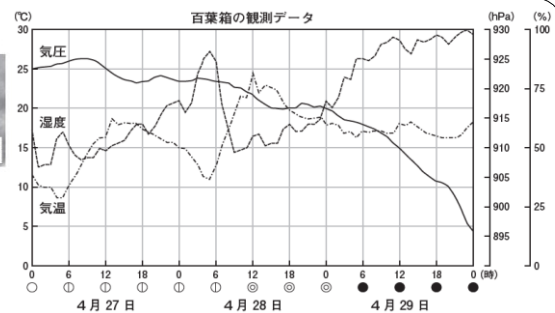
山本さん

雲の種類が変化して、天気が崩れてきました。

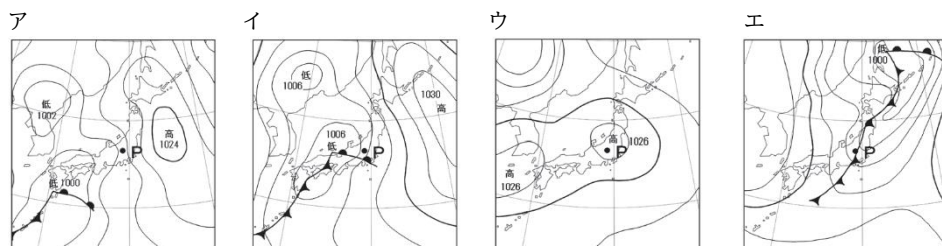
観測データの気圧も3日間下がり続けています。



中村さん



4月29日12時の天気図として最も適切なものを、下のアからエまでのの中から1つ選ばなさい。



(正答)
イ

- ② 力の働きに関する知識及び技能を活用して、物体に働く重力とつり合う力を矢印で表し、その力を説明することに関しては、かなり課題があるが、全国とほぼ同程度である。

調査問題 5 (1) おもりに働く重力とつり合う力の矢印を選択し、その力について説明する問題

「エネルギー」を柱とする領域

図2のように、ばねにのせたおもりが静止したとき、矢印で表したおもりに はたらく重力とつり合う力を、下のアからエまでのの中から1つ選びなさい。
また、選んだ力の説明として適切なものを、下の力からケまでのの中から1つ 選びなさい。

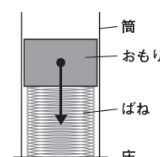
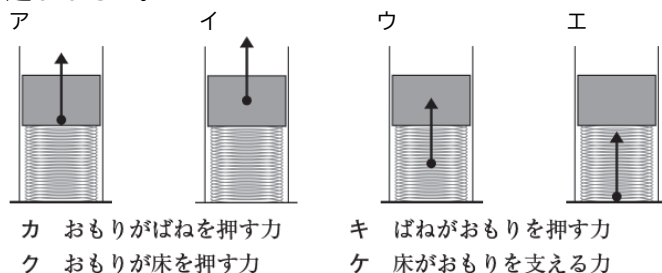


図2 おもりに はたらく 重力



(正答)
つり合う力を表した矢印 ア
つり合う力の説明 キ

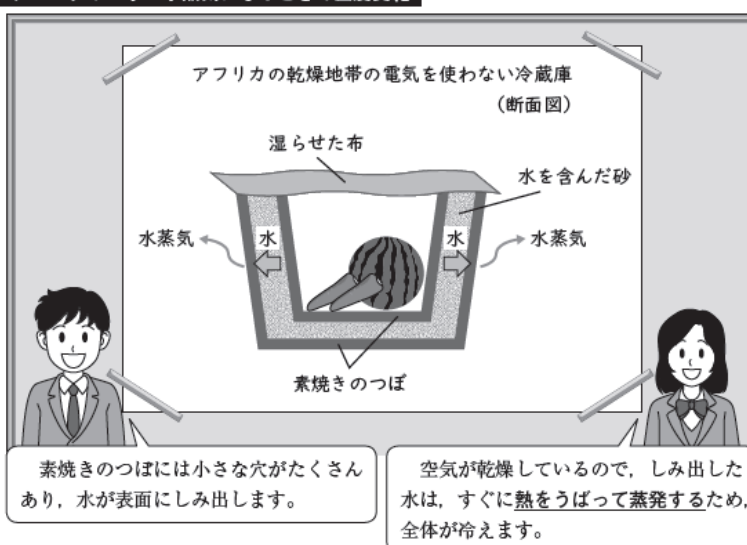
- ③ 液体が気体に変化することによって温度が下がる身近な事象を問うことで、状態変化に関する知識及び技能を活用することに関しては、かなり課題があり、全国と比較するとやや下回っている。

調査問題 7 (1) 液体が気体に状態変化することによって温度が下がる身近な現象を選択する問題 <課題及び指導改善に向けて2 参照>

26頁

「粒子」を柱とする領域

グループ1 水が水蒸気になるときの温度変化



下線部としくみが同じ現象を、下のアからエまでのの中から1つ選びなさい。



(正答)
ウ

2 児童・生徒質問紙調査結果

2(1) 国語と算数・数学に関する児童生徒の興味関心

<令和3年度と令和4年度の数値から>

- ・ 小学校国語及び算数の「～の勉強は大切だ」「～の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ」との質問に肯定的な回答（当てはまる・どちらかといえば、当てはまる）をした児童の割合は、特に国語で増加しているが、「～の勉強が好き」「～の授業の内容はよく分かる」との質問に肯定的な回答をした児童の割合は、特に算数で減少している。
- ・ 中学校国語及び数学の「～の勉強が好き」「～の勉強は大切だ」「～の授業の内容はよく分かる」「～の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ」との質問に肯定的な回答をした生徒の割合は、特に国語で増加している。
- ・ 4つすべての質問に肯定的な回答をした児童生徒の割合は、中学校国語及び数学で増加しているが、小学校算数で減少している。

【凡例】

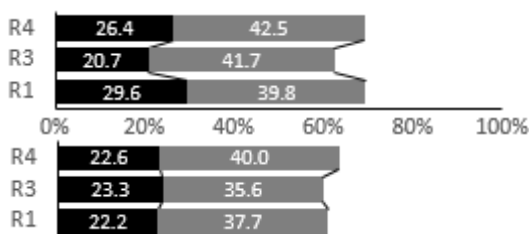
上段 ▶ [小学校質問紙調査にかかわる回答集計]
回答率（0%・・・100%）
下段 ▶ [中学校質問紙調査にかかわる回答集計]

選択肢

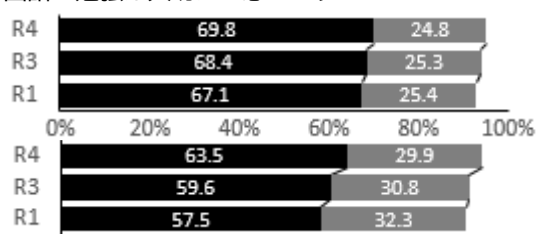
■ 当てはまる

■ どちらかといえば、当てはまる

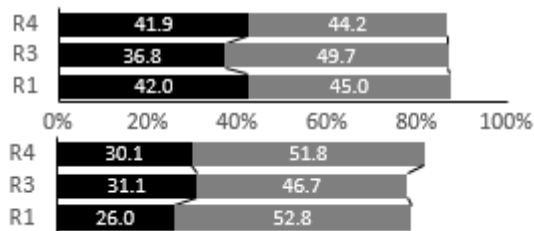
◇ 国語の勉強は好きですか



◇ 国語の勉強は大切だと思いますか



◇ 国語の授業の内容はよく分かりますか



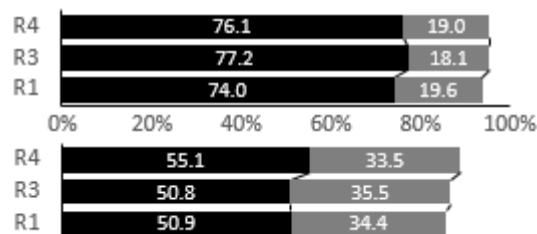
◇ 国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思いますか



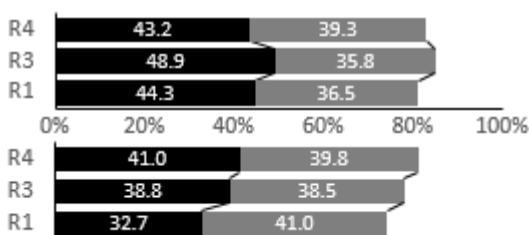
◇ 算数・数学の勉強は好きですか



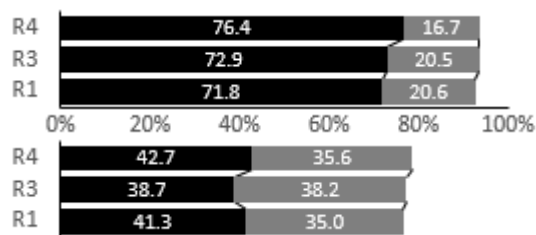
◇ 算数・数学の勉強は大切だと思いますか



◇ 算数・数学の授業の内容はよく分かります



◇ 算数・数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思いますか



2(2) 理科に関する児童生徒の興味関心

<平成 30 年度と令和 4 年度の数値から>

- ・「～の勉強は大切だ」「～の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ」との質問に肯定的な回答（当てはまる・どちらかといえば、当てはまる）をした児童生徒の割合は、中学校の生徒で増加しているが、「～の勉強が好き」「～の授業の内容はよく分かる」との質問に肯定的な回答をした児童生徒の割合は、小学校の児童で減少している。

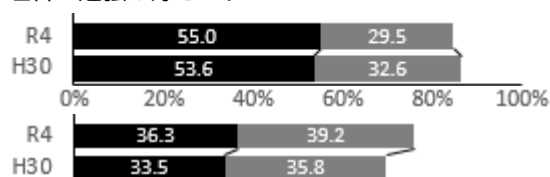
【凡例】

上段 ▶ [小学校質問紙調査にかかわる回答集計]
回答率（0%・・・100%）
下段 ▶ [中学校質問紙調査にかかわる回答集計]

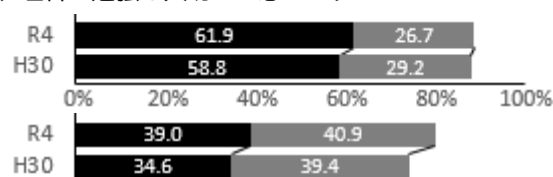
選択肢

■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる

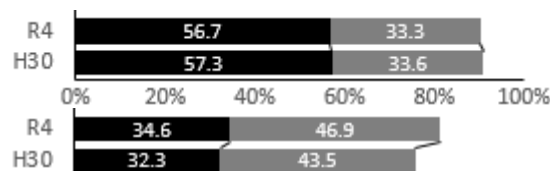
◇ 理科の勉強は好きですか



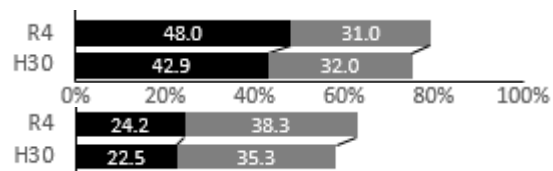
◇ 理科の勉強は大切だと思いますか



◇ 理科の授業の内容はよく分かりますか



◇ 理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思いますか



2(4) ICTを活用した学習状況

<令和 3 年度と令和 4 年度の数値から>

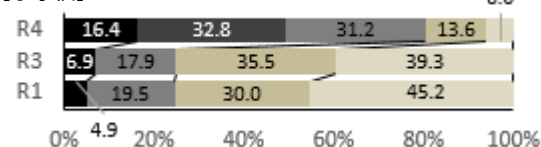
- ・児童生徒の授業での PC・タブレットなどの ICT 機器の使用頻度は増加しており、「ほぼ毎日」と回答した児童生徒の割合は、約 10 ポイント増加している。
- ・「学習の中で PC・タブレットなどの ICT 機器を使うのは勉強の役に立つと思うか」との質問に肯定的な回答（役に立つと思う・どちらかといえば、役に立つと思う）をした児童生徒の割合は 90%を超えており、昨年度と同様に高い割合となっている。

◇ 前年度までに受けた授業で、PC・タブレットなどの ICT 機器を、どの程度使用しましたか

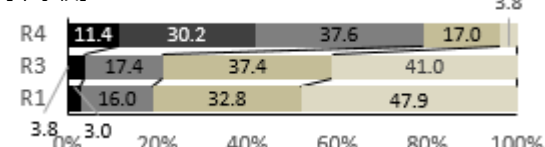
【凡例】

選択肢 ■ ほぼ毎日 ■ 週3回以上 ■ 週1回以上 ■ 月1回以上 ■ 月1回未満

【小学校】



【中学校】



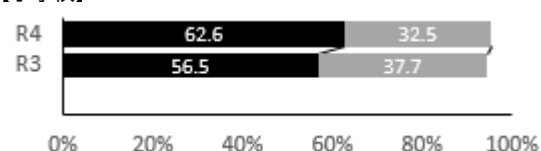
※ R1 及び R3 においては、「ほぼ毎日」、「週1回以上」、「月1回以上」、「月1回未満」の選択肢であったため、「週3回以上」と回答した学校はない。

◇ 学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか ※R1は、調査していない

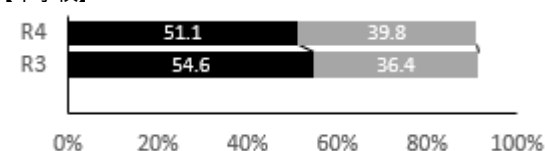
【凡例】

選択肢 ■ 役に立つと思う ■ どちらかといえば、役に立つと思う

【小学校】



【中学校】



2(5) 特別活動・道徳における状況

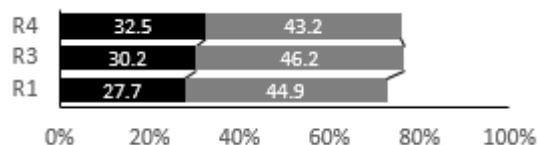
＜令和3年度と令和4年度の数値から＞

- ・「学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか」との質問に肯定的な回答（当てはまる・どちらかといえば、当てはまる）をした児童生徒の割合は、小学校の児童・中学校の生徒ともにやや減少している。
- ・「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか」との質問に肯定的な回答をした児童生徒の割合は、小学校の児童で減少している。

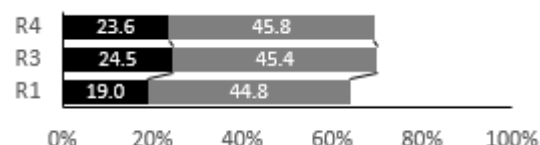
◇ 学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいると思いますか

【凡例】 選択肢 ■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる

【小学校】



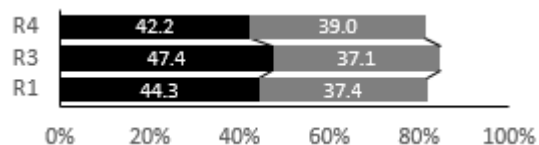
【中学校】



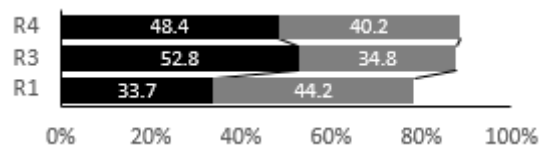
◇ 道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいると思いますか

【凡例】 選択肢 ■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる

【小学校】



【中学校】



2(6) 総合的な学習の時間における状況

- ・「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」との質問に肯定的な回答（当てはまる・どちらかといえば、当てはまる）をした児童生徒の割合は、小学校の児童で約70%、中学校の生徒で約65%であり、中学校の生徒で増加しているが、全国・長野県と比べるとやや少ない。特に、「当てはまる」と回答した児童生徒の割合は、全国と比べて5～6ポイント程度開きがある。

◇ 総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると思いますか

【凡例】 選択肢 ■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる

【小学校】



【中学校】



2(7) 自己肯定感等に関する状況

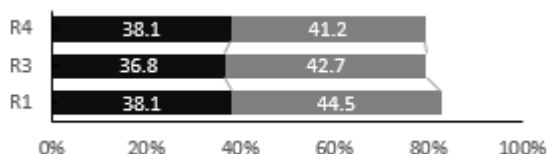
<令和3年度と令和4年度の数值から>

- ・「自分には、よいところがあると思いますか」「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」との質問に肯定的な回答（当てはまる・どちらかといえば、当てはまる）をした児童生徒の割合は、中学校の生徒で増加している。
- ・「自分でやると決めたことは、やり遂げるようとしていますか」「難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦していますか」との質問に肯定的な回答をした児童生徒の割合は、小学校の児童で増加している。
- ・「学校に行くのは楽しいと思いますか」「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」との質問に肯定的な回答をした児童生徒の割合は、小学校の児童・中学校の生徒ともに増加している。

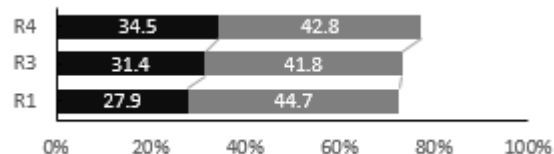
【凡例】 選択肢 ■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる

◇ 自分には、よいところがあると思いますか

【小学校】

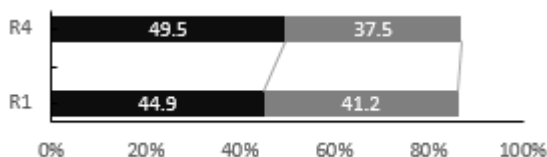


【中学校】

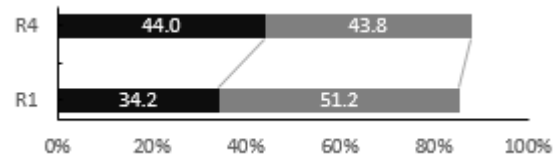


◇ 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか ※R3は、調査していない

【小学校】

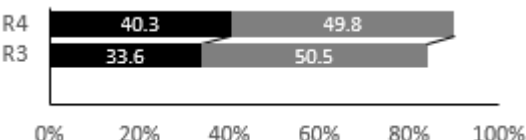


【中学校】

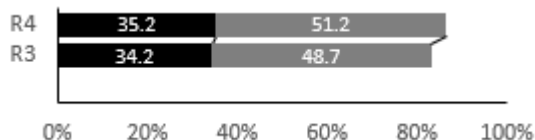


◇ 自分でやると決めたことは、やり遂げるようになっていますか ※R1は、調査していない

【小学校】

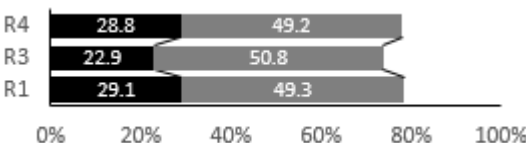


【中学校】

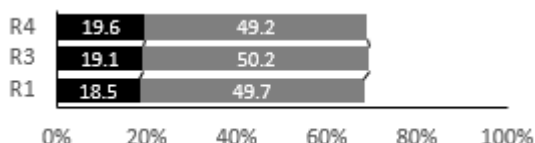


◇ 難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦していますか

【小学校】



【中学校】

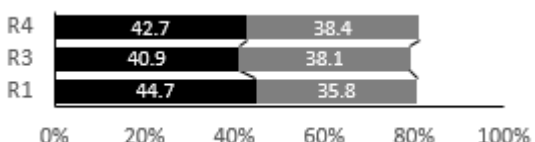


◇ 学校に行くのは楽しいと思いますか

【小学校】

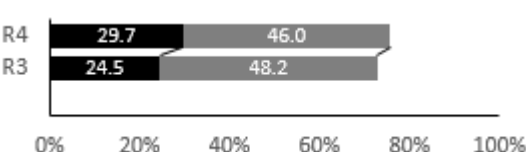


【中学校】

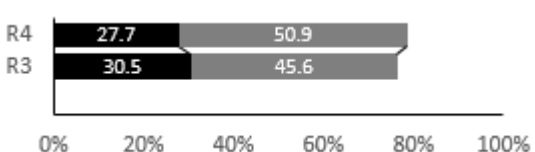


◇ 自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか ※R1は、調査していない

【小学校】



【中学校】



2(8) 主体的・対話的で深い学びの視点から

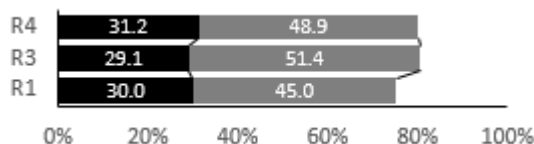
<令和3年度と令和4年度の数値から>

- ・「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」との質問に肯定的な回答（当てはまる・どちらかといえば、当てはまる）をした児童生徒の割合は、小学校の児童で約 80%、中学校の生徒で約 85%であり、小学校の児童・中学校の生徒ともにやや減少している。
- ・「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」との質問に肯定的な回答をした児童生徒の割合は、小学校の児童・中学校の生徒ともに約 80%であり、特に小学校の児童で増加している。
- ・「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」との質問に肯定的な回答をした児童生徒の割合は、小学校の児童で約 80%、中学校の生徒で約 75%であり、小学校の児童・中学校の生徒ともに増加している。
- ・「授業は、自分に合った教え方、教材、学習時間などになっていましたか」との質問に肯定的な回答をした児童生徒の割合は、小学校の児童で約 85%、中学校の生徒で約 80%であり、中学校の生徒で増加している。

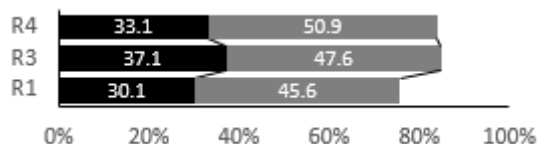
【凡例】 選択肢 ■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる

◇ 前年度までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか

【小学校】

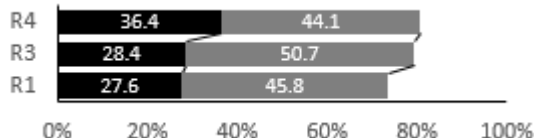


【中学校】

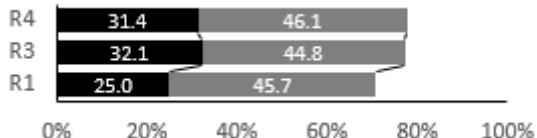


◇ 前年度までに受けた授業では、学級の友達と(生徒)の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか

【小学校】

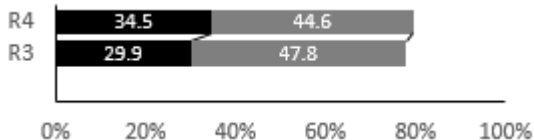


【中学校】

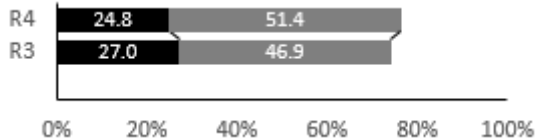


◇ 前年度までに受けた授業では、学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか

【小学校】



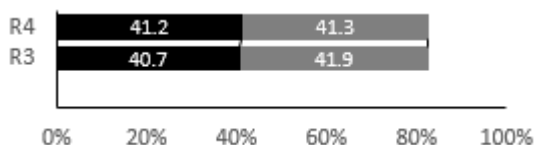
【中学校】



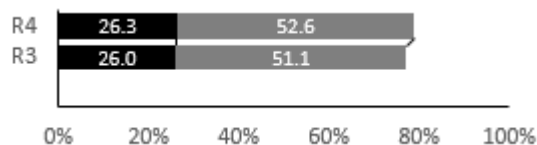
◇ 前年度までに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていたと思いますか

※R1は、調査していない

【小学校】



【中学校】

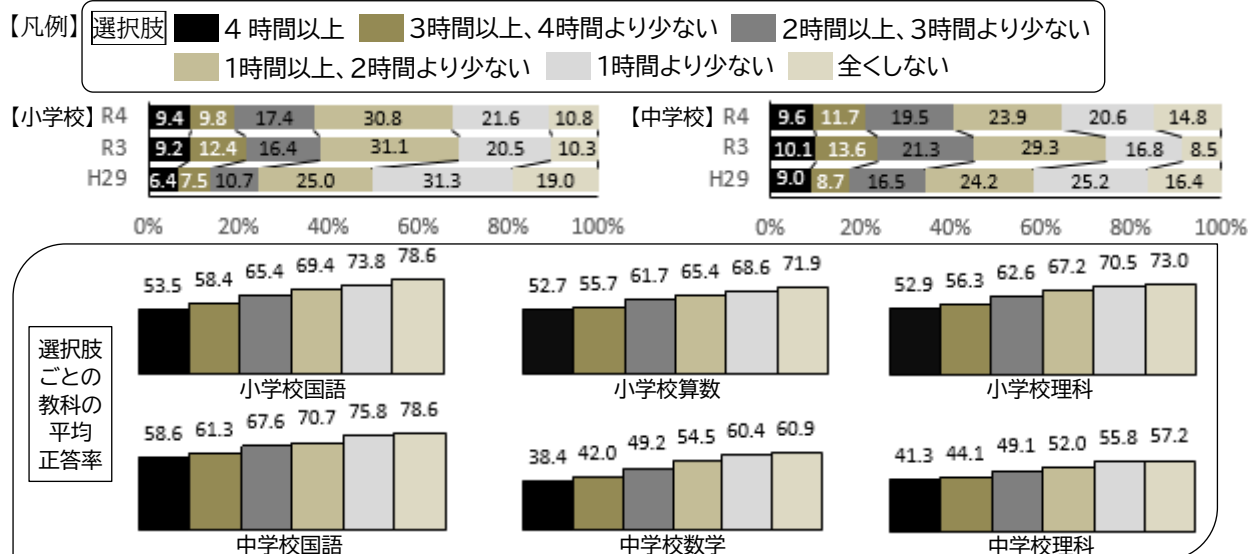


2(9) ゲームや SNS・動画視聴の状況

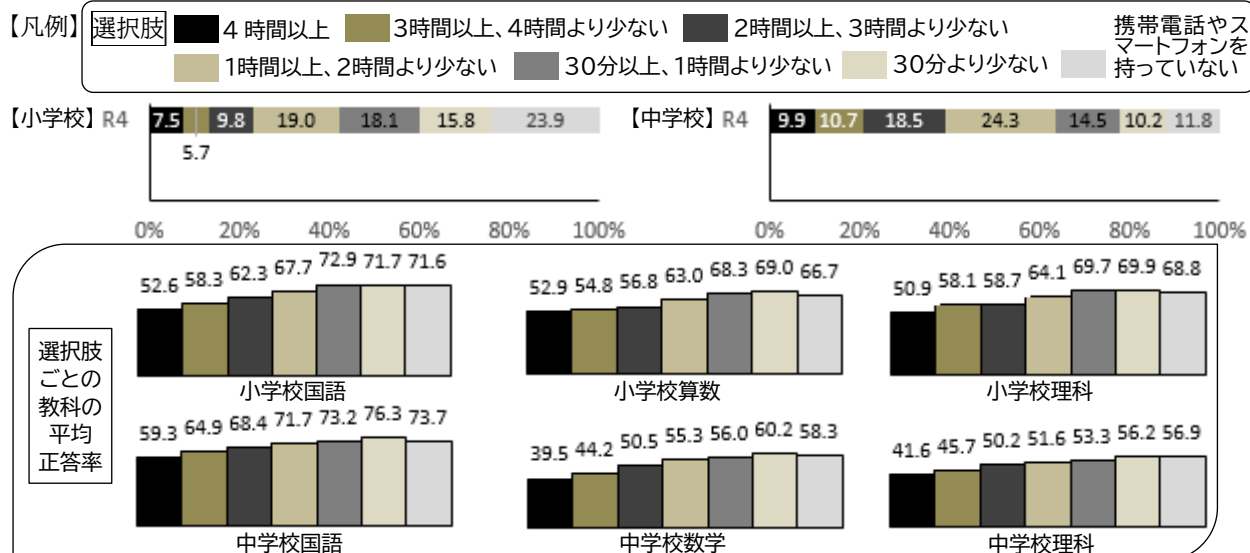
<令和3年度と令和4年度の数值から>

- ・1日当たりのゲームをしている時間は、特に中学校の生徒で減少している。また、1日当たりのSNSや動画視聴を1時間以上行っていると回答した小学校の児童の割合は約40%、中学校の生徒の割合は約65%である。児童生徒ともに、1日当たりのゲームの時間・SNS・動画視聴が長いほど、各教科の平均正答率が低い傾向がみられる。
- ・「携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか」との質問に、肯定的な回答（きちんと守っている・だいたい守っている）をした児童生徒の割合は、特に小学校の児童で増加している。

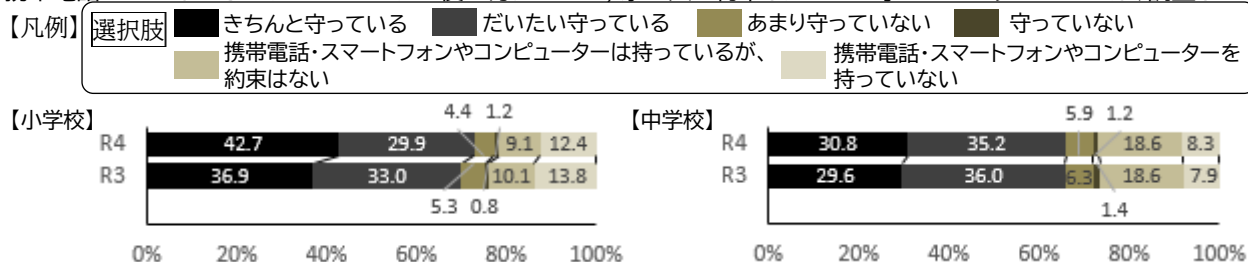
◇ 普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をしますか



◇ 普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしますか(携帯電話やスマートフォンを使って学習する時間やゲームをする時間は除く) ※R1・2は、調査していない



◇ 携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか ※R1は、調査していない



課題及び指導改善に向けて

1 調査問題 1 四

(互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる問題)

(1) 課題が見られた問題について

話し合いの様子の一部

岡さん 学校の近くの公園は、広くて遊具があり、一年生のころから遊んでいる場所です。私は、今まで使ってきた公園を自分たちできれいにすることで、もっとたくさんの人に気持ちよく使ってもらえるようにしたいです。私自身、どうすればよいか考えているところですが、みなさんはどんなアイデアがありますか。

谷原さん 私は、公園に行くと、おかしなふうやペットボトルがいつも落ちてることが気になります。そこで、ごみを拾うきかがあるかよいと思います。ア「きかい」というのは、ロボットのことでではなく、活動する時間のことです。

山下さん 公園のごみを拾うことは、すぐにできるのでよいと思います。でも、続けることは難しい気がします。私は、この公園には花が少ないので、許可をもらって、もっとたくさん花を植えれば、はなやかな感じになると思います。

谷原さん 確かに、山下さんの言うとおり、花を植えることは私たちにもできるし、はなやかになり、よいと思います。ただ、こまめに公園へ行って花の水やりなどの世話を続けることも難しそうですね。

山下さん その点については、もう少し考えていきたいと思っています。

前田さん 私は、公園の遊具のベンキをぬり直したいと思っています。

中村さん ウ「どうして、公園の遊具のベンキをぬり直す必要があるのですか。」

前田さん 公園のすべり台やジャングルジムは、できてから時間がたっていて、どれも暗い感じがします。そこで、自分たちだけでできるかどうかは気になりますが、明るい感じにするために赤色や黄色のベンキで、ぜひぬり直したいと思っています。

中村さん エ「なるほど、いいアイデアですね。ベンキをぬり直して明るくすると、公園がきれいになるということですね。」

岡さん こうして、みなさんの話を聞いてみると、どれも公園をきれいにするためのアイデアですね。

中村さん 今までの話し合いで出たアイデアについて、よい点と問題点に分けて「メモ」をしてみました。

私は、公園が明るくなるので、ベンキをぬり直すことがよいと考えました。できるかどうかは分からないという問題点については、公園を管理している人や家の人に相談するとよいと思います。

みなさんのアイデアや「メモ」から、取り組みやすいという理由で、私は、

「話し合いが続く」

アイデア	
ごみ拾い	○よい点 △問題点
花植え	○ごみがなくなる △続けることがむずかしい
ベンキぬり	○はなやかになる △世話を続けることがむずかしい △明るくなる △できるかどうかは分からない

(条件)

○「話し合いの様子の一部」から言葉や文を取り上げて書くこと。

○書き出しの言葉に続けて、五十文字以上、八十文字以内にまとめて書くこと。なお、書き出しの言葉は、字数にはふくまない。

この問題は、資料を読んで、公園をきれいにするための「ごみ拾い」か「花植え」かのどちらかを選んで自分が岡さんならどのように話すか、その内容を3つの条件(○どちらかを選び、選んだ活動の問題点についての解決方法を書く、○【話し合いの様子の一部】から言葉や文を取り上げて書く、○書き出しの言葉に続けて 50 字以上 80 字以内にまとめて書く)に合わせて書くことが求められています。正答率は5割を超えましたが、3人に1人が、どちらかを選んで【話し合いの様子の一部】から言葉や文を取り上げているものの、選んだアイデアの問題点に対する解決方法を書いていませんでした。「ごみ拾い」と「花植え」どちらのアイデアにも問題点があることを捉え、問題点についての具体的な解決方法を考えるという話し合いの目的意識が薄いまま解答したためと考えられます。

(2) 指導の改善・充実にに向けて

グループの話し合いの中で、中村さんは出されたアイデアをよい点と問題点に分けて<メモ>し、その<メモ>をもとに問題点を踏まえ、岡さんが発言する直前に意見を述べています。友だちの意見を聞き、出された意見を踏まえて自分の考えをまとめると、説得力が増します。自分に合った方法で情報を整理しながら、自分と異なる意見のよさに目を向けて考えることで、自分の考えに広がりや深まりが生まれます。

コロナ禍で、グループ活動の経験の少なさが影響している児童と考えられます。意図的にペアやグループで話し合う場面を設定し、問題点を自分のこととして考え、ベストでなくともベターな答えを練り上げて伝え合う活動を積み重ねたいものです。言葉には相手とのつながりをつくる働きがあることを意識して、日々の指導に当たることが大切です。

2 調査問題 3 二

(文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけることができるかどうかをみる問題)

(1) 課題が見られた問題について

この問題は、【文章2】のよさを見付け、【文章2】から言葉や文を取り上げて書くことが求められています。「聞いたことや経験したことをもとにしていること」や「最後の段落にがんばりたいことを具体的に書いていること」などが、【文章2】のよさであり、それに気付けることが必要な力となりますが、正答率は約4割にとどまっています。回答の約3割は、【文章2】から言葉や文を取り上げて書いているものの、よさについて、「聞いたことや経験したことをもとにしていること」を書くことが不十分であったり、最後の段落のがんばりたいことを具体的に書けていなかったりしたことなどが、正答につながらない要因となっています。また、書き直した【文章2】の書き出しについて問われる問1の問題で、約4割が誤った回答を選択していることから、文章全体の構成や書き表し方に着目して文章を捉えることにも課題があることが考えられます。さらに、100字以内にまとめる字数制限に難しさを感じている児童もいると考えられます。

【文章2】
わたしがこの一年間でがんばりたいことは、運動委員としてみんなのことを考えた新たな活動を進めることです。
そう考えたのは、五年生の時、美化委員長の南さんが卒業する前に話してくれた、活動への思いがすばらしいと思ったからです。南さんは、みんなにそうじ用具の正しい使い方を教えてほしいという思いをもち、各学年にしようかいたそうじです。
この話を聞き、五年生の時にさいばい委員会では自分が行った活動をふり返りました。そして、当番の日には水やりをするだけで、南さんのように、みんなのために新たな活動を提案できなかったことをいばんせしました。
わたしは今年、運動委員になりました。運動が苦手な人もうしたしむことができるように、ルールや道具をくふうした、おに遊びやボールゲームを各学年にしようかいたしたいです。

(2) 指導の改善・充実に向けて

自分の文章のよいところを見付けるためには、文章全体の構成や展開が明確になっているかなどの観点から、具体的に感想や意見を伝え合うことが大切です。文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付ける指導の充実として、互いの書いた文章を読み合い、目的や意図に応じた文章の構成や展開になっているかなどについて、具体的に伝えるような場の設定を工夫することが効果的です。例えば、学習の中で、新聞づくりや見学のまとめ等、限られた字数で考えをまとめるような活動を通して、必要な部分の抜粋や文章を書く時の構成、相手に伝わりやすい文章を書く必要感が生まれることも考えられます。他教科において書いた文章を読み合う場面でも、よさを見付け合う活動を展開することが考えられます。様々な場面で日常的に行うことで、自分の文章を読み返したり、そのよさを見付けたりする態度が習慣化されることが期待されます。また、文章を整えるためには、文章全体の構成や、書き表し方に着目して推敲することが必要であり、推敲する際には、「題材の設定、情報の収集、内容の検討」「構成の検討」「考えの形成、記述」を指導事項の観点として明確にすることも大切です。

3 調査問題 3 四

(漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書くことができるかどうかをみる問題)

(1) 課題が見られた問題について

この問題は、「相手の読みやすさを考えて、行の中心にそろえて書く」という配列について捉えることが求められています。「文字の大きさ」や「文字と文字との間」に注意して書くことについては理解していますが、島谷さんが、「行の中心に文字の中心をそろえて書くこと」に気をつけて書き直していることを捉えることのできなかった児童がいました。

(2) 指導の改善・充実に向けて

読みやすい文章を書くには、一文字一文字を整えることに加え、文章全体の文字の集まりという面から捉え、整えることが重要です。手紙を書く活動など、漢字や仮名の大きさや配列に注意して各場面を設定したり、毛筆で学習したことを日常生活で生かすことを意識できるような工夫をしたりして指導することが大切です。表音文字、表意文字としての平仮名、片仮名、漢字を組み合わせる文章を書くということは、日本特有の文化であることも伝えていきたい内容です。

4 行の中心	3 文字と文字との間	2 文字の大きさ	1 とめやはねの書き方	島谷さんが書き直すときに気をつけた内容として最も適切なものを、あとの1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましよう。
				うららかな春の日が続いています。
				いかがお過こしてしょうつか。
				わたしは今年、六年生としてがんばりたいことがあります。
3 文字と文字との間	2 文字の大きさ	1 とめやはねの書き方	島谷さんが書き直すときに気をつけた内容として最も適切なものを、あとの1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましよう。	うららかな春の日が続いています。
				いかがお過こしてしょうつか。
				わたしは今年、六年生としてがんばりたいことがあります。
				うららかな春の日が続いています。
2 文字の大きさ	1 とめやはねの書き方	島谷さんが書き直すときに気をつけた内容として最も適切なものを、あとの1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましよう。	島谷さんが書き直すときに気をつけた内容として最も適切なものを、あとの1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましよう。	うららかな春の日が続いています。
				いかがお過こしてしょうつか。
				わたしは今年、六年生としてがんばりたいことがあります。
				うららかな春の日が続いています。
1 とめやはねの書き方	島谷さんが書き直すときに気をつけた内容として最も適切なものを、あとの1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましよう。	島谷さんが書き直すときに気をつけた内容として最も適切なものを、あとの1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましよう。	島谷さんが書き直すときに気をつけた内容として最も適切なものを、あとの1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましよう。	うららかな春の日が続いています。
				いかがお過こしてしょうつか。
				わたしは今年、六年生としてがんばりたいことがあります。
				うららかな春の日が続いています。

課題及び指導改善に向けて

1 調査問題 ① 三

(自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫して話すことができるかどうかをみる問題)

(1) 課題が見られた問題について

自分の考えが分かりやすく伝わるように、スピーチのどの部分をどのように工夫して【条件1】話すのか、その意図【条件2】を考えて記述する問題です。正答率は全国とほぼ同程度であり、聞き手に関心を持ってもらえるような表現になるように、言葉の抑揚や強弱、間の取り方を工夫するなど、スピーチ等の言語活動を行う際に大切になる力はお

川口さんのスピーチ

「二人の会話の一部」

最近、ふだんの生活がこれまでとは違うものになってきていると感じます。その変化は、学校での学習にも表れていると思います。例えば、授業でインターネットを活用する機会が増えました。特に、オンラインで離れた場所にいる人と会話することもできて、その便利さを実感しています。一方で、相手と直接会っていないので、やりとりをスムーズに行いにくいという面もあるのではないかと考えています。

先日、総合的な学習の時間で、離れた場所にいる施設の方にオンラインでインタビューをしたときのことです。私は、画面を通してやりとりをしているという状況に気が取られて、相手に必要最小限のことを伝えるだけで精一杯になってしまいました。そのため、相手の反応を踏まえてやりとりをすることができないと感じました。後日、そのことを友達に話したところ、「私は、相手の言ったことに対して相づちを打つように気を付けていました」と話してくれました。

この言葉聞いてはつとしました。オンラインであっても、相手が話したことに相づちを打ったり、相手の話をきいてさら質問をしたりするように意識することが大事だったのです。これからは、オンラインで人と話すときにも、このことに気を付けて、相手とのやりとりをスムーズに行えるようにしたいと思っています。

田中 川口さんが伝えたい内容は分かりました。ただ、スピーチの冒頭から同じ調子で話しているのが、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などの話し方を工夫してはどうでしょうか。例えば、「オンラインで離れた場所にいる人と会話すること」という部分は、伝えたい内容に関係することなので、聞き手に関心をもってもらうために、ゆつくり大きな声で話すというのではないのでしょうか。

川口 なるほど。他の部分も話し方を工夫してみます。ありがとうございます。あなたたちの部分をどのように工夫して話しますか。次の条件1と条件2にしたがって書きなさい。

条件1 「川口さんのスピーチ」のどの部分をどのように工夫して話すのかについて、言葉の抑揚や強弱、間の取り方をなに着目して具体的に書くこと。

条件2 条件1のように話す意図を書くこと。

田中 ここで動画の終わりをもうしますか。「最近、ふだんの生活がこれまでとは違うものになってきていると感じます」という部分は、聞き手を引き付けるために、呼びかけたり問いかけたりする表現にしてみようではないでしょうか。「やりとりをスムーズに行いにくい」という部分は、私も同じように感じたことがあり、この後のスピーチの内容に興味をもつとがでたのでよいと思います。ありがとうございます。

川口 オンラインでインタビューをしたときのことを入れてみました。どうでしょうか。

田中 身近な内容に共感できました。② 始めに話したこととつながっているがよいと思います。

おむね身に付いていると考えられますが、更なる向上が望めると思います。田中さんの助言を受けて、話し方の工夫やその意図については考えられているものの、「オンラインで離れた場所にいる人と会話すること」以外の部分を取り上げられない生徒が見られました。これは、スピーチの内容を踏まえて、相手に伝えたいことは話のどの部分なのかを明らかにして話すことに課題があると考えられます。

(2) 指導の改善・充実に向けて

スピーチなどをする際は、話し手は、自分の伝えたいことを聞き手に分かりやすく伝えるために、場の状況や聞き手の興味・関心、情報量などを考慮しながら、聞き手に応じた語句を選択したり、話す速度や音量、言葉の調子や間の取り方、言葉遣いなどに注意したりして話すことが大切です。

そのためには、以下のような学習過程を仕組み、「自分の伝えたい事」と「表現方法」の関係について、主体的に整理しながら学んでいく必要があります。

- ① 相手に伝える必要感のある場面を取り上げ、スピーチ場面を設定する。
- ② スピーチの中で自分が相手に一番伝えたいこと、理解してもらいたいことを明確にする。
- ③ 相手に分かるように伝えるためには、どんな話し方をすればいいのか、様々な表現方法の工夫を考える。
- ④ 自分の選んだ表現方法を使って、実際にスピーチを行い、その効果を確かめる。

実際の話し方を振り返る場面では、スピーチの様子を、ICT 機器を使って、動画を記録し、自分の話し方を見たり、ペアやグループで互いのスピーチを聞き合い、検討したりする場面を設ける等の活動が効果的です。実際に話す体験を通して、主体的に表現と効果の関係について追究する学習過程を仕組みでいくことが求められます。

2 調査問題 3 四

(場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈することができるかどうかをみる問題)

(1) 課題が見られた問題について

「こどもの日浅い水辺を海にして」という俳句から想像を広げることで生まれた小説「都会のビーチ」で、話の展開を取り上げながら、場面と場面、場面と描写などを結び付けて、結末での登場人物の心情を解釈することをみる問題です。

正答率は全国・県をやや上回ったことから、文学的な文章の心情読解の場面において、抽象的な概念を表す叙述や心情を表す叙述に着目して読む力が、おおむね定着していると考えられます。一方で、「複数の場面や描写を相互に結び付けて展開を考えながら心情を解釈する」ということに、課題がみられました。

「『おれ』は何を『なるほど』と思ったのか、話の展開を取り上げて書く」という問いに対し、「水辺に海を見出していたのはどうやら息子だけではなかったらしい」という結末の描写から、直接分かることを引用し解釈することはできました。しかし、結末に至るまでの、息子の行動の描写と『おれ』の記憶の描写の展開を捉えた上での解釈が十分でないことによる誤答が、全国よりやや多くみられました。

(2) 指導の改善・充実に向けて

文学的な文章を読み味わうためには、話の内容や展開を正しく捉えることが大切です。しかし、これまでの学習では、個々の場面や描写から直接分かることを把握するだけに留まっていたことが多いように思います。このような学習を、話の展開を捉えて、複数の場面を相互に結び付けたり、各場面と登場人物の心情や行動、情景等の描写とを結び付けたりすることによって、場面や描写に新たな意味付けを行う学習へと改善していく必要があります。

そのためには、物語の結末部分等での生徒の疑問から生まれた「問い」を据え、それを主体的に解決していく学習場面を設定し、物語の展開と関連付けて追究していく必要があります。次のような学習展開例が考えられます。

- ① 結末部分の心情の解釈に関わってきそうな叙述を付箋に書き出す。
- ② その付箋を時系列に並べ替え、結末の問いを説明するのに必要な場面や叙述をグループで考え合い選び出す。
- ③ 選択した展開を踏まえて、結末の「問い」についての答えをグループ内で説明し合う。

それぞれの考えを伝え合う場面では、どの描写とどの描写を結びつけて考えるかによって、解釈も多様になるであろうことを踏まえ、自分の解釈の根拠を考えたり、他の読み手の解釈と比較したりすることが大切となります。

3

次の文章は、「こどもの日浅い水辺を海にして」という俳句から想像を広げることで生まれた小説です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

（瀬本裕樹・田丸雅智「俳句でつくる小説工房」による）

四

——線部③「なるほど」とありますが、「おれ」は何を「なるほど」と思ったのですか。話の展開を取り上げて書きなさい。なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

課題及び指導改善に向けて

1 調査問題 ① (4)

(示された場面において、目的にあった数の処理の仕方を考察できるかどうかをみる問題)

(1) 課題が見られた問題について

この問題は、積の大きさを見積もる際に、目的に応じて数を大きくしたり小さくしたりして、概算し見積もる問題です。正答は85円も21個分もどちらも一の位の数を切り捨てて計算し、Bセット1箱分の値段より高くなることを導くというものです。

最も多かった誤答は、85円と21個分をそれぞれ四捨五入して計算するものです。松本市、そして県内の児童の半数以上がこの解答を選んでいました。これは、児童が何らかの数を概数にする際、常に四捨五入を使うと考えていることが原因として考えられます。

また、次に多かった誤答は、85円と21個分をどちらも切り上げて計算したものです。これは問題文の「必ず大きくなることがわかるためには」という文言から大きく見積もるのだと捉えていると考えられます。

今回の結果から、概数を用いる際、目的に応じて切り上げ、切り捨て、四捨五入を用いることができず、解答を誤るという課題が見えてきました。これは、数を概数にする際には常に四捨五入すればよいと児童が考えていると考えられますし、乗法の式とある数との大小関係を比較する際の、概数の積と実際の数の積の大小関係を判断する力に課題があるということが考えられます。

今回の結果から、概数を用いる際、目的に応じて切り上げ、切り捨て、四捨五入を用いることができず、解答を誤るという課題が見えてきました。これは、数を概数にする際には常に四捨五入すればよいと児童が考えていると考えられますし、乗法の式とある数との大小関係を比較する際の、概数の積と実際の数の積の大小関係を判断する力に課題があるということが考えられます。

(2) 指導の改善・充実に向けて

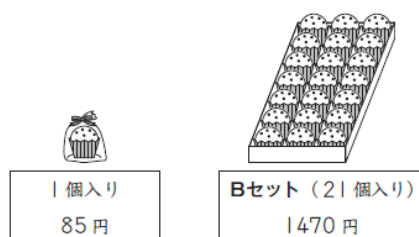
日常生活において、数の大きさを見積もる必要があるときには、目的に応じて数を大きくしてみたり小さくしてみたりして、概算できるようにすることが重要です。その際、概数にする方法である切り上げ、切り捨て、四捨五入を用いて計算し、どの方法が適切であるかを判断できるようにすることが大切です。

日々の授業では、概数にして計算した結果と、実際の数の積との大小関係がどうなるかを確認する活動が大切です。二つの数を切り上げて計算した積は実際の数の積より必ず大きくなる。二つの数を切り捨てて計算した積は実際の数の積より必ず小さくなる。そして二つの数を四捨五入して計算した積は、実際の数の積より大きくなる場合と小さくなる場合があることを児童が実感できることが必要です。また、目的を確認し、それにに応じて、概算の方法を選ぶ活動をするといよいでしょう。例えば、本設問を用いて、 85×21 と1470ではどちらの方が大きいかを予想し、確かめる活動が考えられます。切り上げ、切り捨て、四捨五入した結果を下図のように表し、それを用いて友に説明する活動を通して、 85×21 の答えが1470より必ず大きくなることを言うためには、二つの数を切り捨てて計算する必要があることを理解できるようにすることが大切です。

1470	80×20 (切り捨て)	85×21	90×21 (四捨五入)	90×30 (切り上げ)

(4) カップケーキが1個入り 85 円でも売られています。

くみさんは、1 個入り 85 円のカップケーキ 21 個分の値段と、Bセット 1 箱分の値段である 1470 円を比べることにしました。



1 個入り 85 円のカップケーキ 21 個分の値段は、 85×21 で求めることができます。



85×21 の答えが 1470 より必ず大きくなることは、 85×21 をそのまま計算せずに、85 と 21 をがい数にして計算してもわかります。

85×21 の答えが、1470 より必ず大きくなるのがわかるためには、「85」と「21」をどのようにがい数にして計算するとよいですか。

下の ア から エ までの中から 1 つ選んで、その記号を書きましょう。

ア 85 を小さくみて 80、21 を小さくみて 20 として計算します。

イ 85 を小さくみて 80、21 を大きくみて 30 として計算します。

ウ 85 を大きくみて 90、21 を小さくみて 20 として計算します。

エ 85 を大きくみて 90、21 を大きくみて 30 として計算します。

2 調査問題 2 (4)

(伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、未知の数量の求め方と答えを式や言葉を用いて記述することができるかどうかを見る問題)

(1) 課題が見られた問題について

本設問では、果汁が含まれている飲み物について、果汁の量が2倍、3倍になると、それに伴って、飲み物の量も2倍、3倍になるという比例の関係を用いて、果汁の量が180mLのときの飲み物の量を求めることが必要です。その際、求め方を記述する上で、次の二つの事柄を書くことが必要です。

- ①180mL が 30mL の6倍であることを求めること
- ②果汁の量が6倍になると飲み物の量も6倍になることを用いて、果汁の量が180mLのときの飲み物の量を求めること

本設問における松本市の正答率は約5割で、全国及び県と同様に課題があると言えます。最も多い誤答は「②は記述しているが、①を記述していないもの」で、次に多い誤答が「①は記述しているが②を記述していないもの」でした。しかし、答えの600mLという記述ができていた児童は約8割いることから、答えを求めることはできているが、答えを導くための方法を記述したり説明したりすることに課題がある児童が一定程度いると推測されます。

(2) 指導の改善・充実に向けて

本調査は「事実を記述する問題」「方法を記述する問題」「理由を記述する問題」の3種類の記述内容に関わる問題が出題されています。そのうち本設問は「方法を記述する問題」です。問題を解決するための方法は、問題を解決するために必要となるもの(「用いるもの」)とそれをどのように用いるか(「用い方」)で成り立っています。算数で言うと、「用いるもの」には、数学のツール、数学的な性質や関係があります。「用い方」には、手続きや手順の他に着想・アイデアがあります。本設問においては、「用いるもの」が「飲み物の量と果汁の量に比例の関係があるということ」となり、「用い方」が「果汁の量が6倍になると飲み物の量も6倍になることを使えば、 100×6 で果汁の量が180mLのときの飲み物の量を求めることができる」となります。

そこで、指導に当たっては、方法を説明する活動を通して、「用いるもの」と「用い方」を明確にすることが大切です。例えば、授業における結果や方法の見通しをもつ場面で、一方の数量に着目するのではなく、果汁の量に伴って飲み物の量がどのように変化するかに着目できるようにしたり、共同追究の場面で、答えを確認するだけに留まらず、求めた式や数について振り返って考えたりする活動を設定することが大切です。例えば、「なぜ『 $180 \div 30 = 6$ 』という計算をしたのか」ということや『 $100 \times 6 = 600$ 』の6は何なのか」ということを話し合うことで、「用いるもの」や「用い方」を意識できるようにすることが大切です。

(4) かいとさんたちは、果汁の割合と果汁の量がわかっていとき、飲み物の量を求めることができるかどうかを考えています。そこで、りんごの果汁の割合が30%で、果汁の量が180mLのときの飲み物の量を求めることにしました。



果汁が30%ということは、果汁が30mLのとき、飲み物の量は100mLですね。



そうですね。私は、果汁の量から飲み物の量を求めるために、表にまとめました。

果汁の量と飲み物の量					
果汁の量 (mL)	30	60	90	...	180
飲み物の量 (mL)	100	200	300	...	?

上の表を見て、かいとさんは、次のことに気づきました。



果汁の量が2倍、3倍になると、それにもなって飲み物の量も2倍、3倍になることがわかりました。

果汁の量 (mL)	30	60	90	...	180
飲み物の量 (mL)	100	200	300	...	?

Diagram showing ratios: 30 to 60 is 2倍, 60 to 90 is 3/2倍, 90 to 180 is 2倍, 100 to 200 is 2倍, 200 to 300 is 3/2倍, 300 to ? is 2倍.

ゆうかさんは、かいとさんが気づいたことをもとに、次のように考えました。



下の表のように、果汁の量が□倍になると、それにもなって飲み物の量も□倍になるのではないのでしょうか。このことを使えば、果汁の量が180mLのときの飲み物の量を求めることができますね。

果汁の量 (mL)	30	60	90	...	180
飲み物の量 (mL)	100	200	300	...	?

Diagram showing a multiplier □倍 from 30 to 180 and 100 to ?.

果汁の量が180mLのときの飲み物の量は、何mLになりますか。

180mLが30mLの何倍かをどのように求めたのかわかるようにして、飲み物の量の求め方を式や言葉を使って書きましょう。また、答えも書きましょう。

課題及び指導改善に向けて

1 調査問題 ⑦ (2) (箱ひげ図から分布の特徴を読み取ることができるかどうかをみる問題)

(1) 課題が見られた問題について

「どの高さからコマを回すとより長い時間回るのか」について考える場面で、「中位置と高位置の箱ひげ図の箱が示す区間にふくまれているデータの個数と散らばりの程度について正しく述べたものを選ぶ」という問題でした。この問題は、半数以上の生徒が箱ひげ図が示す分布の特徴を読み取ることができていない、という傾向が見られました。

このような問題に対応するためには、箱ひげ図から何が分かるのかを理解し、読み取る力が必要です。しかし、多くの生徒は箱ひげ図の視覚的な見やすさから、直感的な理解に留まり、データの個数の特徴まで考えを深めることができていないために適切に解答することができなかったのではないかと考えられます。

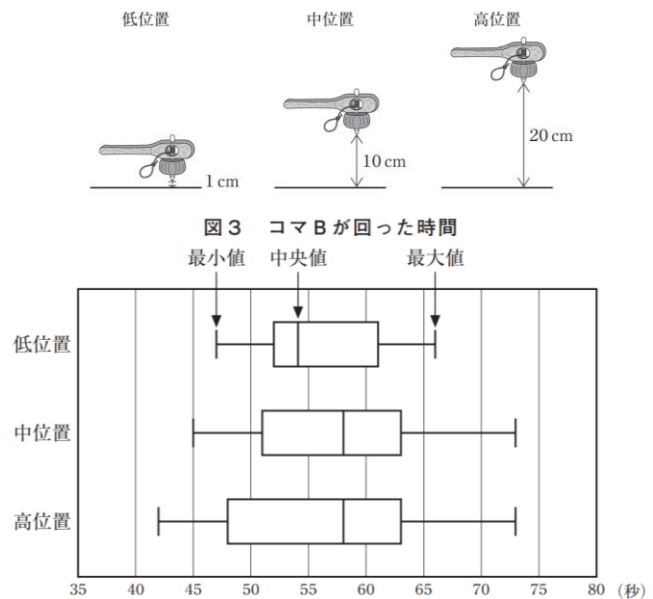
(2) 指導の改善・充実に向けて

ウの誤答が多かったことから、箱ひげ図の箱で示された区間には、全データのうち中央値を中心とする約半数のデータが含まれることや、箱ひげ図の箱やひげの長さによらず、四つの区間には、均等にデータの個数が含まれることを、箱ひげ図とドットプロットを並べて示すなど、データの傾向と散らばりについて確認することが大切だと考えられます。また、箱ひげ図に表すことで失われる情報があることから必要に応じてヒストグラムなどと合わせて、データの分布の特徴を考察することも大切です。

本調査問題からは、箱ひげ図の特徴を知り、データの分布の傾向を読み取って判断し、その理由を数学的な表現を用いて的確に説明することが大切です。

そのためには、日常生活や社会の事象を題材として、問題解決の計画を立て、データを収集・処理し、傾向を捉え、結果を分析するという一連の活動を充実させることが必要であると考えられます。

(2) 大地さんはコマAを、葉月さんはコマBを選びました。コマを回す練習をしていた葉月さんは、コマを回す高さによって回る時間に違いがあるのではないかと考えました。そこで、次の図のように、1 cm の高さを低位置、10 cm の高さを中位置、20 cm の高さを高位置として、それぞれの位置から20回ずつコマBを回し、コマBが回った時間のデータを位置ごとに集めました。そして、それぞれのデータの散らばりの程度を比較するために箱ひげ図をつくりました。



葉月さんは、前ページの図3の箱ひげ図を比較して考えています。最大値と中央値は、低位置よりも中位置、高位置の方が大きいことから、葉月さんは低位置よりも中位置、高位置の方がより長い時間回ると判断しました。

次に、中位置と高位置の箱ひげ図を比較すると、箱が示す区間は高位置よりも中位置の方が短いことがわかりました。

このとき、箱が示す区間にふくまれているデータの個数と散らばりの程度について正しく述べたものを、下のアからエまでのの中から1つ選びなさい。

- ア データの個数は中央値を中心とする全体の約半数であり、データの散らばりの程度は、高位置よりも中位置の方が小さい。
- イ データの個数は中央値を中心とする全体の約半数であり、データの散らばりの程度は、高位置よりも中位置の方が大きい。
- ウ データの個数は高位置よりも中位置の方が少なく、データの散らばりの程度は、高位置よりも中位置の方が小さい。
- エ データの個数は高位置よりも中位置の方が少なく、データの散らばりの程度は、高位置よりも中位置の方が大きい。

2 調査問題 ⑨ (2) (筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明することができるかどうかをみる問題)

(1) 課題が見られた問題について

はじめに示された長方形ABCDの辺の長さをいろいろに変えても $\angle EBF$ の大きさは、いつでも 60° になることを見だし、この事柄が成り立つ理由を、これまでに示された内容を整理しながら図形の性質や関係を用いて、筋道を立てて考え、数学的に説明する問題です。

事柄の説明に三角形の合同や三角形の内角の和が根拠になることは理解できているものの、それらを用いて筋道を立てて説明を構想することができていない生徒が多くみられます。また、結論を用いて事柄の成り立つ理由を示している生徒や、説明の根拠となる図形の性質を見いだせず説明の見通しがもてないまま無解答である生徒が全国とほぼ同程度見られます。示された図形の性質を根拠に、どのように筋道を立てて説明を構想すればよいか、見通しの立て方に課題があると考えられます。

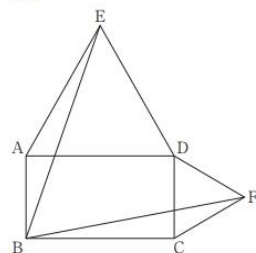
(2) 指導の改善・充実に向けて

図形領域においては、本調査問題のように長方形の辺の長さを変えたり、平行四边形に変えたりして、問題の条件を一部変更しても同じことがいえるのか、自ら進んで統合的・発展的に考えることが重要です。例えば、1人1台端末を利用しながら、 $\angle EBF$ の大きさは、いつでも 60° になるのではないかと驚きをもって予想し、その理由を主体的に追究する姿を期待したいものです。

本調査問題からは、結論を導くために何が分かればよいかを明らかにしたり、与えられた条件を整理したり、着目すべき性質や関係を見だし、事柄が成り立つ理由を数学的に説明できるようになることが必要になります。そのための指導の改善・充実の方向として、同じ辺や角に印を付けることで図形の性質や関係を直感的に捉え、説明の見通しや構想を立てることが容易になると考えられます。さらに、他者との話し合い活動を通して、前提となる条件や正しいと認めた事柄を確認し、説明しようとする事柄を明らかにしながら、説明の構想を仲間と練り上げていく活動を取り入れることや、自己の追究の過程を仲間と振り返ることも大切だと考えられます。

⑨ 次の図1は、長方形ABCDの外側に辺AD、DCを1辺とする正三角形ADE、DCFをかき、点Eと点B、点Bと点Fを結んだものです。

図1



(2) 琴音さんは、次の図2や図3のように、21ページの図1の長方形ABCDの辺の長さをいろいろに変えた図をかきました。このときも、 $\triangle ABE \cong \triangle CFB$ が成り立つので、 $EB = BF$ がいえます。琴音さんは、 $EB = BF$ 以外にも、辺や角についていえることがないか調べました。

図2

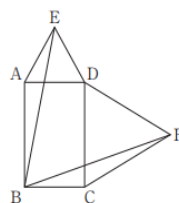
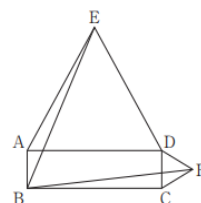


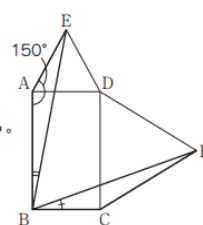
図3



調べたことから、琴音さんは、長方形ABCDの辺の長さを変えても、 $\angle EBF$ の大きさがいつでも 60° になると予想し、次のように考えました。

琴音さんの考え

- ① $\angle EBF$ について、
 $\angle ABC = 90^\circ$ より、
 $\angle ABE + \angle CBF = 30^\circ$ がいえれば、 $\angle EBF = 90^\circ - 30^\circ$ となり、
 $\angle EBF$ が 60° になることがいえる。
- ② $\angle ABE + \angle CBF = 30^\circ$ になることは、 $\triangle ABE \cong \triangle CFB$ からわかる等しい角と、
 $\angle EAB = 150^\circ$ を用いて示すことができる。



$\angle ABE + \angle CBF = 30^\circ$ を示すことで、長方形ABCDの辺の長さを変えても、 $\angle EBF$ の大きさがいつでも 60° になることが説明できます。琴音さんの考えの②にある $\triangle ABE \cong \triangle CFB$ と $\angle EAB = 150^\circ$ はすでにわかっていることとして、 $\angle ABE + \angle CBF = 30^\circ$ になることを下の説明の[]に示し、 $\angle EBF$ の大きさがいつでも 60° になることの説明を完成しなさい。

説明



$\angle ABE + \angle CBF = 30^\circ$ になることが示せたので、
 $\angle EBF = 90^\circ - (\angle ABE + \angle CBF)$ より、
 $\angle EBF = 90^\circ - 30^\circ = 60^\circ$ になる。

課題及び指導改善に向けて

1 調査問題 2 (3)

(自分で発想した予想と、実験の結果を基に、問題に対するまとめを検討して、改善し、自分の考えをもつことができるかどうかを見る問題)

(1) 課題が見られた問題について

水溶液の凍り方について、実験結果を基に、それぞれの水溶液が凍る温度を見だし、問題に対するまとめを選ぶ問題です。実験の【結果】から、それぞれの水溶液が凍った温度を読み取り、1 を正しく選ぶことができていたことから【結果】を正しく読み取ることにしておおむね定着しています。しかし、結果の考察では【結果】から分かることとしては正しいものの、【問題】に対する答えとはなっていない 7 を選んでいるものが誤答の中で最も多くありました。自分で発想した【予想】と、実験の【結果】を基に、【問題】に対するまとめを検討することに課題が見られました。

つくった水よう液で、次のような実験をしました。

【方法】

①水、砂糖水、食塩水をそれぞれ、試験管に同じ量入れる。 ②水、砂糖水、食塩水を冷やすための物をつくる。 ③冷やすための物に、①を入れて冷やす。ときどき、試験管をとり出し、温度とようすを観察する。

実験の【結果】、水、砂糖水、食塩水の「こおり始めた温度」と「すべてこおった温度」は、下のようになりました。

	こおり始めた温度	すべてこおった温度
水	0℃	0℃
砂糖水	-1℃	-1℃
食塩水	-6℃	-8℃

(3) はるとさんは、実験したあと、【問題】、【予想】を確認しました。

【問題】
砂糖水や食塩水がすべてこおる温度は、水がすべてこおる温度より低いだろうか。

【予想】 (はるとさんの予想)
砂糖水や食塩水は、こおるのが水の部分だから、水がすべてこおる温度と同じ0℃で、すべてこおると思う。

この【結果】からは、わたしの【予想】がちがっていることがわかったよ。【結果】の(ア)ということから考え直すと、【問題】に対するまとめは、(イ)といえるね。

はるとさんのことばの(ア)の中にあてはまるものを、下の1から4までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。

また、(イ)の中にあてはまるものを、下の5から8までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。

(ア)

- 1 水は0℃、砂糖水は-1℃、食塩水は-8℃ですべてこおった
- 2 水、砂糖水、食塩水は、冷やすとすべてこおった
- 3 すべてこおるまでの時間は、砂糖水より食塩水が長かった
- 4 水、砂糖水、食塩水は、0℃のときにすべてこおった

(イ)

- 5 砂糖水や食塩水がすべてこおる温度は、水がすべてこおる温度と同じである
- 6 砂糖水や食塩水がすべてこおる温度は、水がすべてこおる温度より低い
- 7 食塩水がすべてこおる温度は、砂糖水がすべてこおる温度より低い
- 8 食塩水だけが、水がすべてこおる温度より低い温度ですべてこおる

(2) 指導の改善・充実に向けて

実験結果を基に考察する場面では、自分の予想と実験結果とを照らし合わせて、予想の正否の確認だけでなく、学習問題に立ち返って、結果から学習問題に対してどんなことが言えるのかを自分の言葉で書けるような授業づくりをしていきましょう。その上で、友達の考えとの比較を通して自分の考えを見直したり、深めたりしながら学習問題を解決することができるようにしていくことの重要性を意識して授業改善していくことが大切です。

2 調査問題 3 (1)

(日光は直進することを理解しているかどうかを見る問題)

(1) 課題が見られた問題について

光の性質を基に、鏡を操作して、指定した的に反射させた日光を当てることができる人を選ぶ問題です。的と三角に切り抜いた段ボールの延長線上の3のかつやさんを選ぶと正答となります。最も多い誤答は、三角に切り抜いた段ボールの正面に立っている2のはなこさんでした。日光は直進するといった光の性質についての理解に課題が見られました。

2のはなこさんを選んだ誤答が最も多いことから、日光は直進することについての理解が十分でないことや、日光は直進するという知識はもっていながらも、問題の状況と知識を関連付けて考えることができていないということも考えられます。

3 たかしさんは、晴れた日に科学クラブで、同じ大きさの鏡を使い、日光をはね返して、的をゲームをしました。

上の図のように、3人とかべの間に、それぞれ、円形、三角形、四角形に切りぬいた、鏡と同じ大きさの段ボールの板を置きました。

(1) 3人が上の図の位置で鏡の向きを変え、それぞれが日光をはね返して、3つの段ボールの板にあてたときに、かべの左にある的に、三角形の光をあてることができるのはだれですか。下の1から4までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 たかしさん
- 2 はなこさん
- 3 かつやさん
- 4 全員

(2) 指導の改善・充実に向けて

例えば、光の進み方に関する問題について、はね返した日光を地面や壁に当てたり、はね返した日光の間に紙を入れたりするなどして、子どもたちがはね返した日光が直進することを捉えた後に、今回の問題のような場面だったらどうなるかを考えたり、実際に光を当てて確かめたりする学習活動が考えられます。子どもたちが光の直進をより深く理解するためには、主体的な問題解決を通して知識を習得できるようにすることや、習得した知識を使って、他の場面でも同じことが言えるかどうかを確かめたり、実際の自然の事物・現象と関連付けて説明したりする学習活動を意識して授業改善していくことが大切です。

3 調査問題 4 (2)

(予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して、問題を解決するまでの道筋を構想し、自分の考えをもつことができるかどうかを見る問題)

(1) 課題が見られた問題について

よしこさんたちは、冬の気温の変化の仕方(しき)をまとめたあと、話し合いました。

よしこさん 冬の気温の変化の仕方について、昼の気温だけで、夜の気温について調べていないね。

じろうさん 夜の気温についても調べてみよう。「冬の夜の気温は、どのように変化するのか。」という【問題】を解決していこう。

よしこさん 晴れている昼の気温は、正午(午前12時)過ぎごろに最も高くなるから、晴れている夜の気温は、午前0時過ぎごろに最も低くなると思うな。気温の変化の仕方は、晴れた夜の方が大きいと思う。

じろうさん 夜は、太陽が出ていないから、晴れていても、くもっていても、気温は変化しないと思うよ。

(2) じろうさんの下線部の考えが正しければ、冬の夜の気温は、どのようになると考えられますか。下の 1 から 4 までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。

1

2

3

4

夜の気温の変化について、他者の予想を基に、記録の結果を表したグラフを見通して選ぶ問題です。最も多い誤答は、夜中に気温が下がるグラフになる、よしこさんの予想を表した4のグラフでした。気温の変化という時間的、空間的な見方・考え方をはたらかせて、問題を解決するまでの道筋を構想し、他者の予想を捉え、予想が確かめられた場合に得られる実験結果を見通すことに課題が見られました。

(2) 指導の改善・充実に向けて

まず、単元を通して、学習問題に対する予想を基に、児童本人が予想通りならどのような実験結果が得られるかを考え、本時の見通し(学習課題)をもてるようにしましょう。そのために、予想や予想の根拠を大切に、児童が学習課題を自分の言葉で書けるような授業づくりを心がけましょう。その上で、児童本人だけでなく、友達との協働的な追究の中で、児童が友達の予想も捉え、友達の予想が確かめられた場合の結果を見通し、それを基に解決の方法を発想する学習活動を単元の中に設定することが大切です。

課題及び指導改善に向けて

1 調査問題 2 (2)

(継続的に記録した空の様子を撮影した画像と百葉箱の観測データを天気図に関連付けて、天気の変化を分析して解釈できるかどうかをみる問題)

(1) 課題が見られた問題について

複数の観測データを分析し、天気の変化と関連付け天気図を選ぶ問題でした。正答のイと答えた生徒は約 4 割であり、全国に比べてやや低い結果でした。選択肢エと解答した誤答が正答より多く、「12 時の天気は雨」というデータにとらわれ「寒冷前線の通過」と考えたようです。

このような問題に対応するためには、前線の種類や構造、前線の通過に伴う天気の変化について理解していること、雲の写真や観測データ(天気、気温の変化、気圧の変化)を含め総合的に判断することが必要です。

(2) 指導の改善・充実に向けて

本調査問題は基礎的な知識の確かな理解をもとにした、思考力・判断力が問われる問題です。

まず、天気の変化の基礎的な知識として、高気圧・低気圧の構造と天気の特徴について、前線の種類や構造、前線の通過に伴う天気の変化について、それぞれの違いや特徴を理解することが必要です。雲の画像と天気の変化や前線の種類をまとめるといった活動を調べ学習で行うこともよいでしょう。

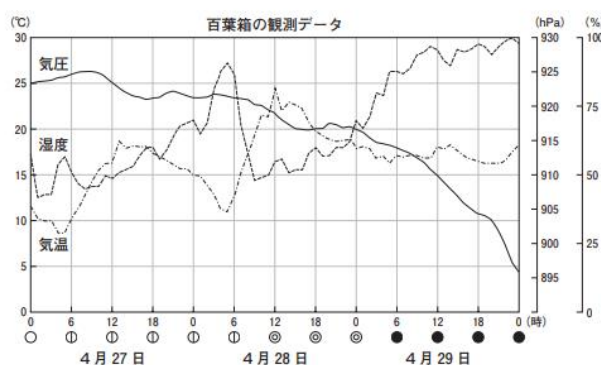
天気の変化の基礎を理解したうえで、天気図をもとに天気、気温の変化、気圧の変化の予想をグループで考え、理由をつけて発表し合うといった活動を行うのも効果的であると思われます。継続的な気象観測のデータと対応する日の天気図から典型的な変化をした日のデータを使い、天気図と関連付けてグループで考察する学習場面を設定することもよいでしょう。

他の分野であっても、複数のデータから読み取った情報を対話的に分析して解釈する学習を仕組んでいくことは、非常に重要であると考えます。

2 中村さんと山本さんの学校は、下の天気図の P 地点にあります。タブレット型端末で空のようすを撮影し、百葉箱の観測データと関連付け、天気の変化について理科の授業で科学的に探究しました。

西の空のようすと観測データを関連付けて考察する場合

<4月27日13時 晴れ> <4月28日13時 くもり> <4月29日13時 雨>



雲の種類が変化して、天気が崩れてきました。

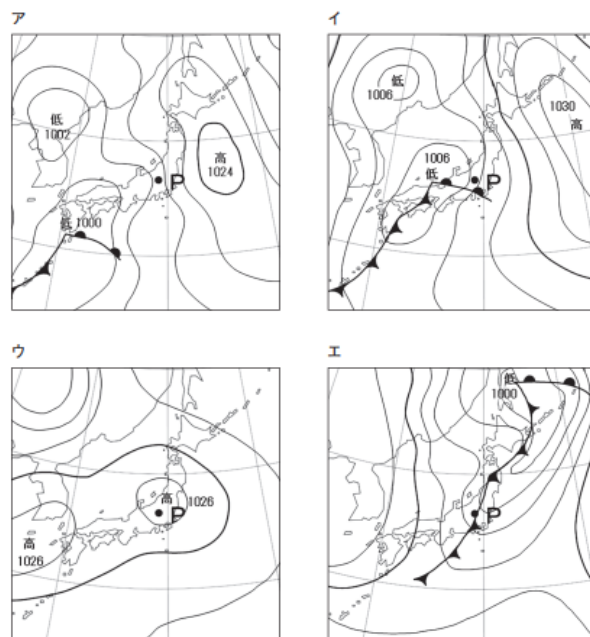


観測データの気圧も3日間下がり続けています。

雲の種類の変化と観測データから、4月29日12時の気圧配置を考えましょう。



(2) 4月29日12時の天気図として最も適切なものを、下のアからエまでの中から1つ選びなさい。



2 調査問題 7 (1)

(液体が気体に変化することによって温度が下がる身近な事象を問うことで、状態変化に関する知識及び技能を活用できるかどうかをみる問題)

(1) 課題が見られた問題について

いくつかの身近な現象の中で、液体が気体に状態変化することによって温度が下がるものを選択するという問題でした。この問題は、正答率がおおむね3分の1にとどまり、更に全国に比べてやや低い結果となりました。このことから、温度が下がることにつながる現象の概念等を理解することに課題があると考えられます。

選択肢の工を解答した生徒の割合が誤答の中で最も高く、氷に食塩を加えて水の温度を下げる小学校での観察、実験を想起し、温度が下がることのみに着目し、熱を奪って蒸発する仕組みと捉えていると推測されます。また、アやイを選択した生徒は、熱の伝わり方や、物理変化、化学変化に関する知識が身に付いていないため、熱の伝導や化学変化に伴う吸熱反応を状態変化に伴う温度変化と捉えていると考えられます。

グループ1 水が水蒸気になるときの温度変化

(1) 下線部としくみが同じ現象を、下のアからエまでの中から1つ選びなさい。

ア	イ	ウ	エ
かき氷をすくった金属のスプーンの温度が下がる	ラムネ菓子を食べると化学変化で口の中の温度が下がる	アルコールで手を消毒すると、手の温度が下がる	氷に食塩をかけると0℃より温度が下がる

(2) 指導の改善・充実に向けて

コロナ禍で頻繁に手をアルコールで消毒していますが、生徒はその時に起こっている現象について、授業で学習した内容と結びつけて考えられていないことが推測されます。状態変化に関する知識を身に付けるだけでなく、身近な現象を科学的に説明できる程度に概念等を理解することが大切です。そのためには、状態変化に関する知識と身近な現象を関連付けて探究する学習場面を繰り返し設定することが必要となります。

具体的には、液体が気体へと状態変化するときに周囲の熱を奪うことで温度が低くなる現象が日常生活で起こっている場面を、個人で挙げたり、グループで討議したりする時間を設けることが考えられます。熱を奪って蒸発する仕組みは、アルコール消毒で手が冷たくなる他にも、夏の暑い日に行う打ち水や、汗をかいた肌に風が当たると冷たく感じるなど、日常生活で想起する場面が多くあります。その際、生徒から挙げられた場面が熱を奪って蒸発したことで温度が下がったものなのかどうかを検討し、熱が伝わる現象や化学変化によって熱が奪われる現象と混同していないかを確認することが大切です。また、気象観測に用いる乾湿計の乾球と湿球に温度差が生じる現象も同じ仕組みであることから、単元を超えて状態変化に関する知識と身近な現象を関連付けることも可能となります。

状態変化に限らず、日常生活で起こる現象について、理科の知識を活用して説明する活動を行うことで、自然の事物・現象についての理解が深まり、科学的に探究する力を養うことに繋がるものと思われます。

今年度の主な特徴

人の役に立ちたいと願う子ども 一方、不安を抱える子ども

「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」という質問について、過去5年間で「当てはまる」と回答した割合がおよそ8ポイント上昇しています。道徳的価値の理解を深める学習の推進や、松本版コミュニティスクールの方々の支援を受けながら、身近な地域の人やものとの関わり合いを通して、自己肯定感が高まり、心が成長しているのではないかと考えられます。

一方で、図1は、「将来の夢や目標を持っていますか」という質問の回答についての、平成29年と令和4年度の比較です。5年前と比較して「当てはまる」と回答した割合がおよそ10ポイント低くなっています。これは、目まぐるしい変化を続ける現代社会、長引くコロナ渦や不安定な国際情勢などで、将来への展望が持てずに不安を抱える子どもが増えていることが考えられます。

ICT機器を活用した学習活動

一人一台端末が整備され、ICT機器を使うのは勉強の「役に立つと思う」「どちらかといえば役に立つと思う」と感じている子どもは、昨年に続き9割を超えています。図2は、「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」という質問についての、令和元年と令和4年度の比較です。「当てはまる」と回答した割合が、一人一台端末の導入を境におよそ9ポイント高くなっており、情報収集などの調べ学習でICT機器を活用し、課題を解決している子どもが増えていると考えられます。

一方で、約7割の子どもが「週1回以上は、授業中に自分で調べる場面で、ICT機器を使っている」と回答しているのに対し、「意見交換や、考えをまとめて発表する場面において、ICT機器を週1回以上使用している」と回答した割合は約3～4割にとどまり、更なる有効な活用を模索していく必要があると考えられます。

学力状況と生活・学習実態との相関関係

話し合う活動と正答率

図3は、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の回答と各教科の平均正答率との相関図です。話し合う活動を通じて、友達と関わり合いながら考えを深めていく学習を行っている児童ほど正答率が高くなっている傾向があります。

図4は、「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」の回答と各教科の平均

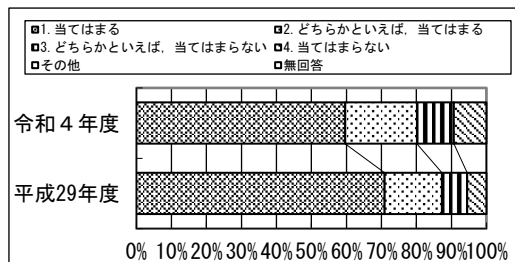


図1 将来の夢や目標を持っていますか

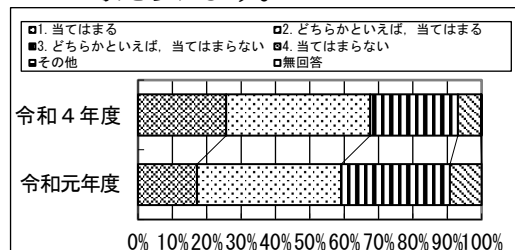


図2 総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか

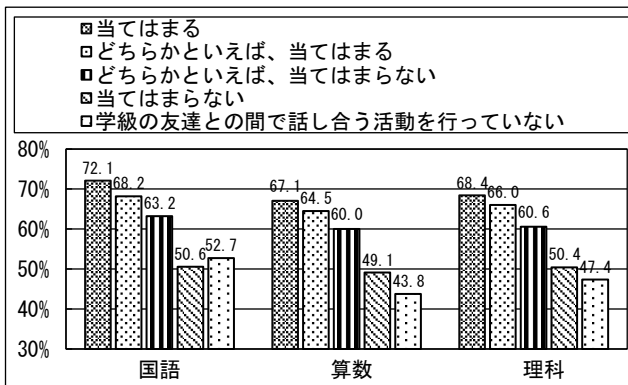


図3 「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」と平均正答率

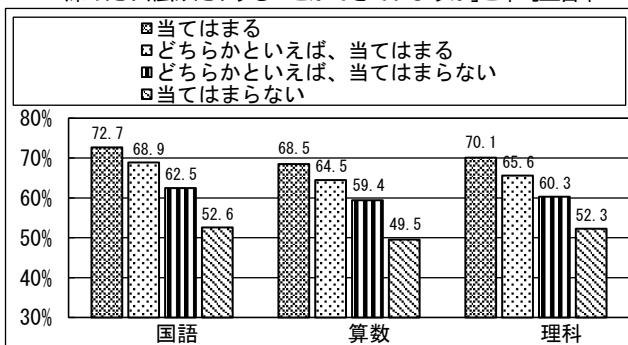


図4 「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」と平均正答率

正答率との相関図です。周りの人たちと共に考えていく学びを楽しいと感じ「当てはまる」と回答している児童ほど、正答率が高くなっています。主体的・対話的な学びを通して、「何を学ぶか」だけでなく「どのように学ぶのか」という過程を大切に、自分から伝え、友達と話し合う中で自分の学んだ一つ一つの知識がつながり、「分かった」「楽しい」と思える授業にしていけることをこれからも取り組んで行く必要があると考えます。また、こうした話し合う活動を通して、自分とは違う考えや発想に触れ、新しい発見や考えが生まれる授業を引き続き進めていく必要があると考えます。

ICT機器活用と正答率

図5は、「普段、1日当たりどれくらいの時間、スマートフォンやコンピュータなどのICT機器を、勉強のために使っていますか」の

質問についての回答と各教科の平均回答率との相関図です。「全く使っていない」よりも「30分より少ない」「30分以上、1時間より少ない」を回答した児童の平均正答率が高く「2時間以上」を回答する児童の平均正答率は低くなる傾向があります。

また、図6は「普段、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲームをしますか」の回答と各教科の平均正答率との相関図です。「全くしない」と回答した児童と比べて、テレビゲームを

する時間が長くなればなるほど、平均正答率が下がっていく傾向があります。一人一台端末が整備され、学習場面での活用が進み、さらに家庭学習での活用も進んできています。長時間のテレビゲームについては、学習に影響を与える心配な面がみられるものの、学習に適正なICT機器活用を進めていくことは、学習をより効果的に進めていくことにつながっていると考えられます。また、各々の児童がそれぞれに見つけた課題を解決していく道具となり、周りの人たちと考えを素早く共有することのできる利点を活かし、共に考え、学び、新しい発見や豊かな発想を促すことにつながる学習を引き続き展開していく必要性があると考えます。

総 括

「人の役に立つ人間になりたい」という質問に対して、肯定的に捉えている児童が、ここ数年徐々に増えてきています。一方、「将来の夢や目標を持っていますか」という質問に対しては、否定的に捉えている児童がここ数年増えてきていることも分かります。近年の様々な問題からくる予測困難な時代の到来が児童の思いや考えに少なからず影響しているように思います。ICT 機器の活用については、普及が急速に広がり、児童の学びのツールとして、興味関心・意欲を高め、学びの深まりや理解度に繋がっていることが分かりました。また、ICT 機器を活用するか否かにかかわらず、友達との話し合いや関わりが学びを深め豊かにし、確かな学力に結びついていることが伺えます。このような変化の激しい社会を生きていくために、課題に対して自分の考えをもち、人とのかかわりを含め多様な考えに耳を傾け、判断決定していく力が求められています。児童が持つ前向きな気持ちや不安な気持ちに寄り添いながら、学習環境や心のケアを更に整えていく必要があると考えます。

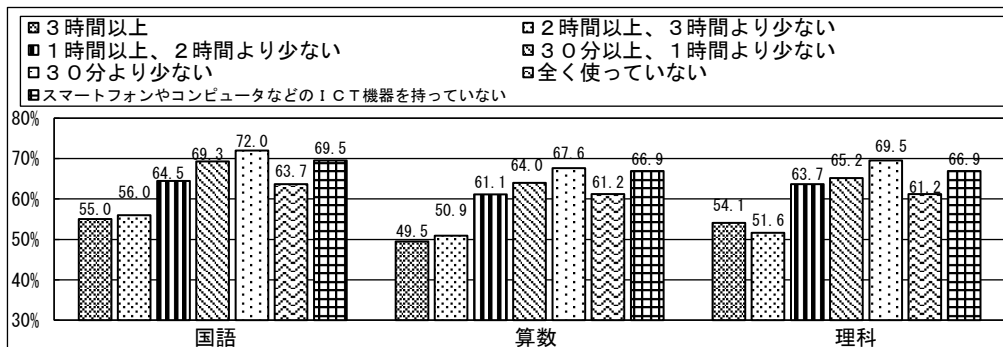


図5 「普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、スマートフォンやコンピュータなどのICT機器を、勉強のために使っていますか」と平均正答率

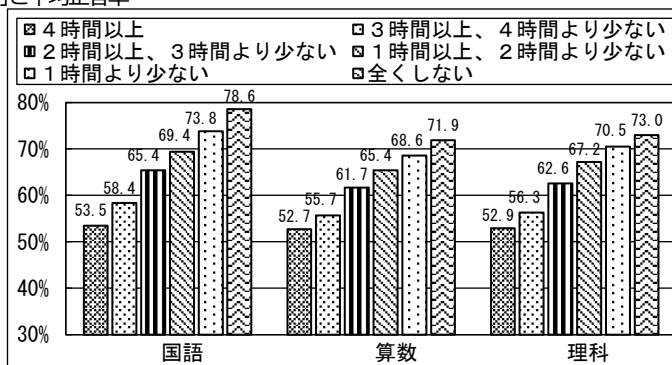


図6 「普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をしますか」と平均正答率

今年度の主な特徴

自己肯定感を高めている生徒

図1は「自分には、よいところがある」という質問についての経年変化です。「当てはまる」と回答した割合が3年前と比較しておよそ7ポイント増えており、自分のよさに気づき、自身を肯定的にとらえている生徒が増えてきていることがわかります。これは、学校における探究的な学びの継続など生徒が自分で決めたことをやり遂げた経験に加え、

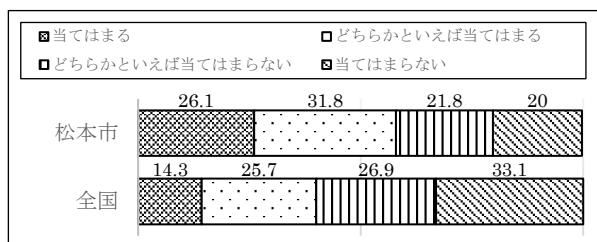


図2「今住んでいる地域の行事に参加していますか」

互いの意見を生かし、話し合いで解決方法を決められる生徒

図3は「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか」の質問についての経年変化です。「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合は、6年前と比較しておよそ18ポイント高くなっています。これは、新学習指導要領で求められる生徒の疑問や問いを授業に生かした「主体的・対話的で深い学び」の視点による学習の積み重ねが、話し合う活動のよさを味わうことにもつながっているものと考えられます。

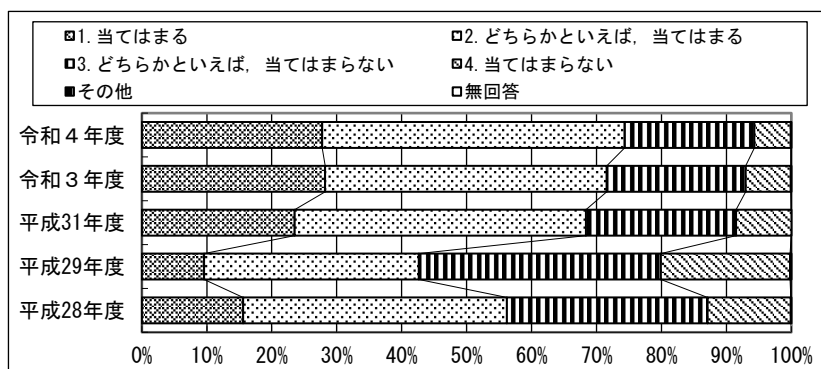


図3 あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか

◇学力状況と生活・学習実態との相関関係

PC・タブレットなどのICT機器の使用と正答率

表1は、本年度から新設された質問「授業中に自分で調べる場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っているか」への回答と平均正答率です。国語・数学・理科の全ての教科で、使用頻度が「ほぼ毎日」「週3回以上」の生徒より「月1回以上」「月1回未満」の生徒の方がやや平均正答率がやや高い傾向にあり、単純にICT機器の使用頻度が高ければ、学力が高いとは言えないということが分かります。

選択肢	生徒数の割合 (%)	平均正答率 (%)		
		国語	数学	理科
1 ほぼ毎日	5.2	65.0	45.0	48.3
2 週3回以上	20.0	67.5	52.0	50.0
3 週1回以上	39.3	70.5	52.2	50.4
4 月1回以上	25.4	73.1	56.2	53.2
5 月1回未満	10.1	68.9	50.8	52.0

<表1> 学校で、授業中に自分で調べる場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか。
(インターネット検索など)

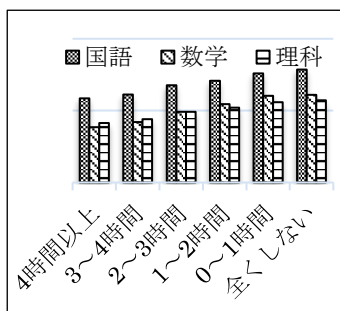


図4 平日のテレビゲーム時間と平均正答率

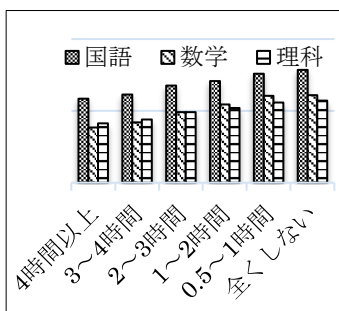


図5 平日の学習・ゲーム以外のSNS・動画視聴時間と平均正答率

一方で、テレビゲーム(図4)、SNSや動画視聴(図5)を1日何時間するかという質問と正答率との相関では、「全くしない」「1時間より少ない」と回答した生徒は、いずれの教科でも平均正答率が高く、「4時間以上」にくらべて最大で20ポイント以上高い教科もあり、学習以外での使用時間が長くなるほど、平均正答率は下がっていく傾向が顕著に見られます。

また、「普段、スマートフォンやコンピュータなどのICT機器を1日何時間、勉強のために使っていますか」という質問でも、使用時間が長くなるほど、平均正答率は下がっていく傾向も見られ(図6)、ICT機器の家庭学習での利用については、更に効果的で正しい使用方法を習得していくことが大切と思われます。

理科の授業や問題への取り組みと正答率

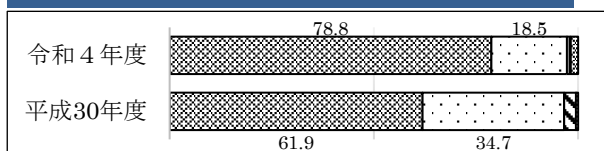


図7 今回の理科の問題では、解答を文章などで書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか

また、「理科の授業で、観察や実験の結果をもとに考察していますか」(図8)の質問では、「当てはまる」と回答した生徒は、全国より6ポイント高く、「当てはまらない」と回答した生徒と平均正答率に最大で18ポイントの差がありました。各校の理科授業において、見通しをもって観察・実験・考察を行うという科学的事象を探究する過程を大事にしていることが、自ら課題をもち粘り強く取り組む力の育成につながり、正答率にも反映されていると推測できます。

総括

「自分にはよいところがある」と答える生徒の割合は、年々増加しており、これまでで最も高い割合となっています。「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の質問に肯定的に答えている生徒も多く、教師が生徒の良い面を適切にとらえ、タイムリーにプラスの評価を返したり、引き続き全国と比べて高い割合を示している地域とのつながりの中で、生徒が活躍する機会が多かったりすることもその要因として考えられ、松本市の教育環境の豊かさが伺えます。

一方、昨年度から本格的に導入が始まったICTの活用では、授業中「自分で調べる学習」や「意見を交換する場面」での活用が全国より10ポイントほど下回ったり、生徒と教師の活用意識に乖離が見られたりしています。一概にICT機器の使用頻度が高ければ、学力が高いとは言えないものの、個別最適な学習のほか「調べ学習」や「まとめ」「発表場面」などでの有効な活用が一層期待されます。また、家庭学習での活用も求められている一方で、家庭における生徒のICT機器との向き合い方については心配も多く、今後の大きな課題と言えます。

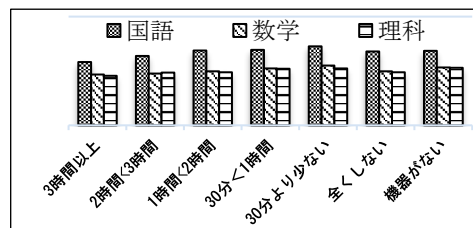


図6 普段、スマートフォンやコンピュータなどのICT機器を1日何時間、勉強のために使っていますか

4年ぶりに実施した理科の学力調査では、「解答を文章などで書く問題についてどのように解答したか」(図7)という質問に、8割近くの生徒が「全ての書く問題で解答を書こうと努力した」と回答し、割合が大きく上昇しています。

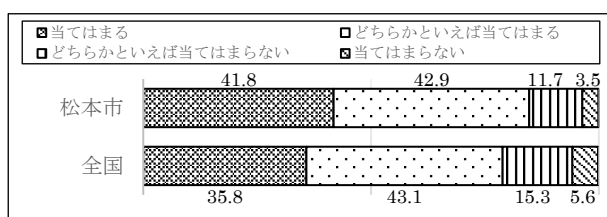


図8 観察や実験の結果をもとに考察していますか

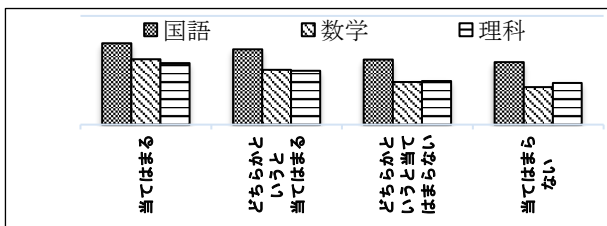


図9 図8について生徒が回答した選択肢別の平均正答率

教育委員会資料
4. 11. 17
中央図書館

報告第 3 号

年末年始期間における貸出冊数の変更について

1 趣旨

昨年度、試行実施した年末年始等の長期休館中における貸出冊数の変更について、利用者に好評だったため本年度も実施することについて報告するものです。

2 実施内容

(1) 年末年始休暇期間

令和4年12月29日（木）～令和5年1月3日（火）

(2) 貸出冊数を変更する期間

令和4年12月24日（土）から12月28日（水）の4日間

※12月26日（月）は南部図書館のみ開館、27日（火）は南部図書館休館

(3) 貸出冊数の変更内容

「貸出冊数10点まで」を「貸出冊数15点まで」に変更

(4) その他

ア 視聴覚資料の点数（5点まで（内、映像資料は3点まで））、予約点数（10点まで）の変更は行わない。

イ 実施期間の貸出の返却予定日（※年末年始休館を除く14日間）

貸出日	返却予定日	貸出日数	備考
12月24日（土）	1月13日（金）	20日間	
25日（日）	14日（土）	20日間	
26日（月）	15日（日）	20日間	南部のみ開館
27日（火）	17日（火）	21日間	南部のみ閉館
28日（水）	17日（火）	20日間	南部は18日（水）まで

3 周知方法

(1) 図書館の館内掲示、チラシ、FMまつもと等により周知します。

(2) 図書館ホームページ、図書館フェイスブックに掲載します。

担当 中央図書館
館長 小西 えみ
電話 32-0099

教育委員会資料
4. 1 1. 1 7
文 化 財 課

周知事項 1

松本城南外堀跡発掘調査現地説明会及び松本城三の丸跡（土居尻第16次）発掘調査現地一般公開の開催について

1 趣旨

本年度実施している松本城南外堀跡及び松本城三の丸跡（土居尻第16次）発掘調査の成果を一般に公開、周知するため、標記事業を開催することについて周知するものです。

2 開催内容

- (1) 日時 令和4年11月19日（土） 10時30分から12時まで
- (2) 場所 史跡松本城南外堀跡発掘調査地ほか（松本市大手3丁目3-84ほか）
- (3) 申込方法 事前申込不要（参加無料）
- (4) 内容 現地の説明（石列など）及び出土遺物の説明（瓦など）

3 調査成果

今回の南外堀跡の調査目的は、南外堀の範囲及び深度を確認するものです。調査によって、三の丸側の岸に石垣が設置されていたことを確認し、南外堀の範囲や構造を明らかにするうえで貴重な成果が得られました。また、土居尻第16次調査では中世の木簡や獣骨など、祭祀に関わると考えられる遺物が出土しています。

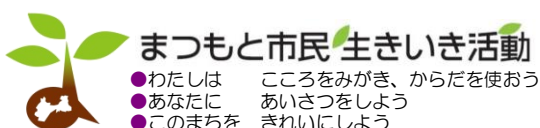
4 周知方法

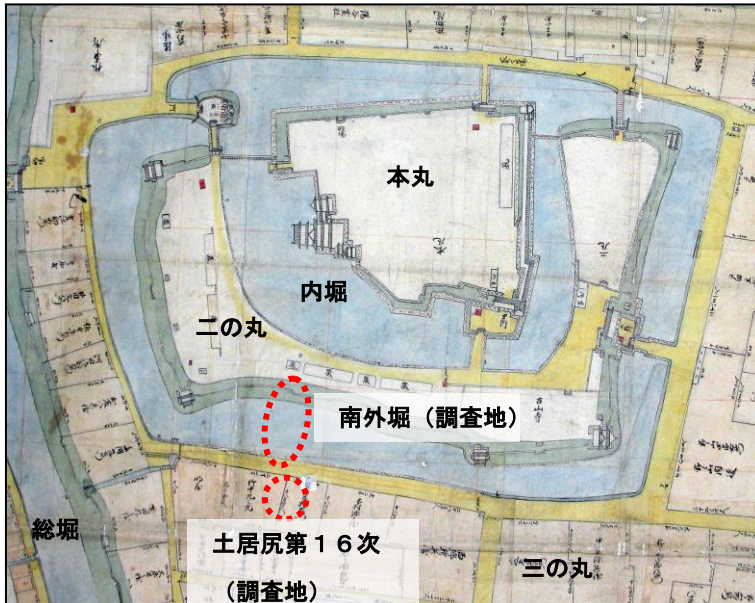
- (1) 松本市ホームページ
- (2) プレスリリース
- (3) 松本市文化財課SNS（Facebook、Instagram）

5 その他

- (1) 後日、松本市YouTubeチャンネルにて発掘調査報告動画を公開します。
- (2) 雨天の場合、現地見学は中止しますが、資料の配布と出土遺物の見学・説明は実施します。

担当	文化財課
課長	竹原 学
電話	34-3292





絵図で見る調査地の位置
(「享保十三年秋改松本城下絵図」
部分・加筆)

三の丸側で出土した石垣
(松本城南外堀跡)



出土した木簡
(松本城三の丸跡(土居尻第16次))